

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

JAPAN

Tama



門 32
號 3316
卷 5

青俗紀聞卷之九

賓客



合體

○請帖各の時へ必ず當日廉酒を進ト慶賀案内の帖或ひも免使を以テ入る可有返事ありバ相伴仕向ノもむかじく帖を以テアリ其高日廳堂ナビミ諸不表門まで掃除レ酒宴の用意成アレ

○請帖も紅唐紙をもぢ楷書めくもむ免貴人ヘモ自唐帝代ゆ後も入仕の通套もあら後代用ひすつ至も小廝を小者を使とぞ持せ候る也○相伴の向人中入るを請帖スヨウスウみかゞハシマまある帖の文面ハタケ某人を請せ來て倍代娘マダムと不熟ハラハラもむち遣主を上客シヤクを位貴人を相伴ハシマ上客シヤクみ附して失礼ハシマあとはなまきを客方カマツチを恭礼ハシマ佳者ハシマの身身ハシマ謝ハシマか妻ハシマ夫ハシマ家ハシマ當日

賓客

門田圖書館
35.1.28
藏書

謹ト某日敬具杯茗奉迎

高軒側聆

鴻誨伏惟

惠然早臨曷勝榮感之至

右啓

大德望某號某姓老大人 臺下

眷晚生某姓名頓首拜

參詣モかうじに故障あらとひハ謝帖をちりや先後を以て謝ひ招請せ後ハ自身
年う謝ひ假令延引すかくても後を以て謝を申す事なし

○賓當日持來れ土產物な一貴人へお見て見ゆふとそも贊等持來す經
事か一進物を兩三月以前お筋を又ねづきを事もあり其席は事か
よもて品く不同ありたゞハ肴遙みる壽麵壽桃など湯餅會満月等

の遙ゆき猪肉鷄蛋小児へのむきのうれ帽子胸尚等隙時の請酒
魚肉猪肉あらひ時新の菓子等あリ ○廳堂かうはけ先西面小蜂猴圖
蜂猴の封候と同音少賓或或ハ祝意の文字又お花等掛物をかけ上之額をうち
掛りの左右お祝意の文又お貴人有徳の人お書字系聯代子前お高車城
居卓幃を掛卓は上お宣德あるの香爐小唐を焚錫の燭基一対お紅燭
を五芯瓶一対お時候の茶花色お取ましりけおに中以下の寄せお香爐燭基

式面正筒封

某姓名老大人帳下

恭謝

前席盛饌

某姓某名拜

用ひ亟唯掛物の布タフ唐金縫物等タカシメモノ大オホき印ハシマ花瓶ハナブシ小コトハ花瓶ハナブシ生スル
却チヨリ卓障チヨウヨウ紅緞子羅紗等レヂンシラサ等タタキ造タケル金糸キンシはく麒麟ケンニ兩竜蟠蝠リョウボンブツ等タタキ
を縫箔ハラフ一布裏ハタハラを用ヨウ也

數日不面

足下屋梁顏色無刻不在念也
足下倘亦念及鄙生乎請移
玉趾早降詰叙衷曲卽刺竚聽
履聲不二

某字某姓老長翁 台電

某姓某名具

某月某日發

賓客

式畧函書

三

別來數日真若九秋之隔辱
寵召恨不能支飛
左右適緣冗羈姑容片刻卽當趨
答覆

命此

某々老長兄台展

某姓某名

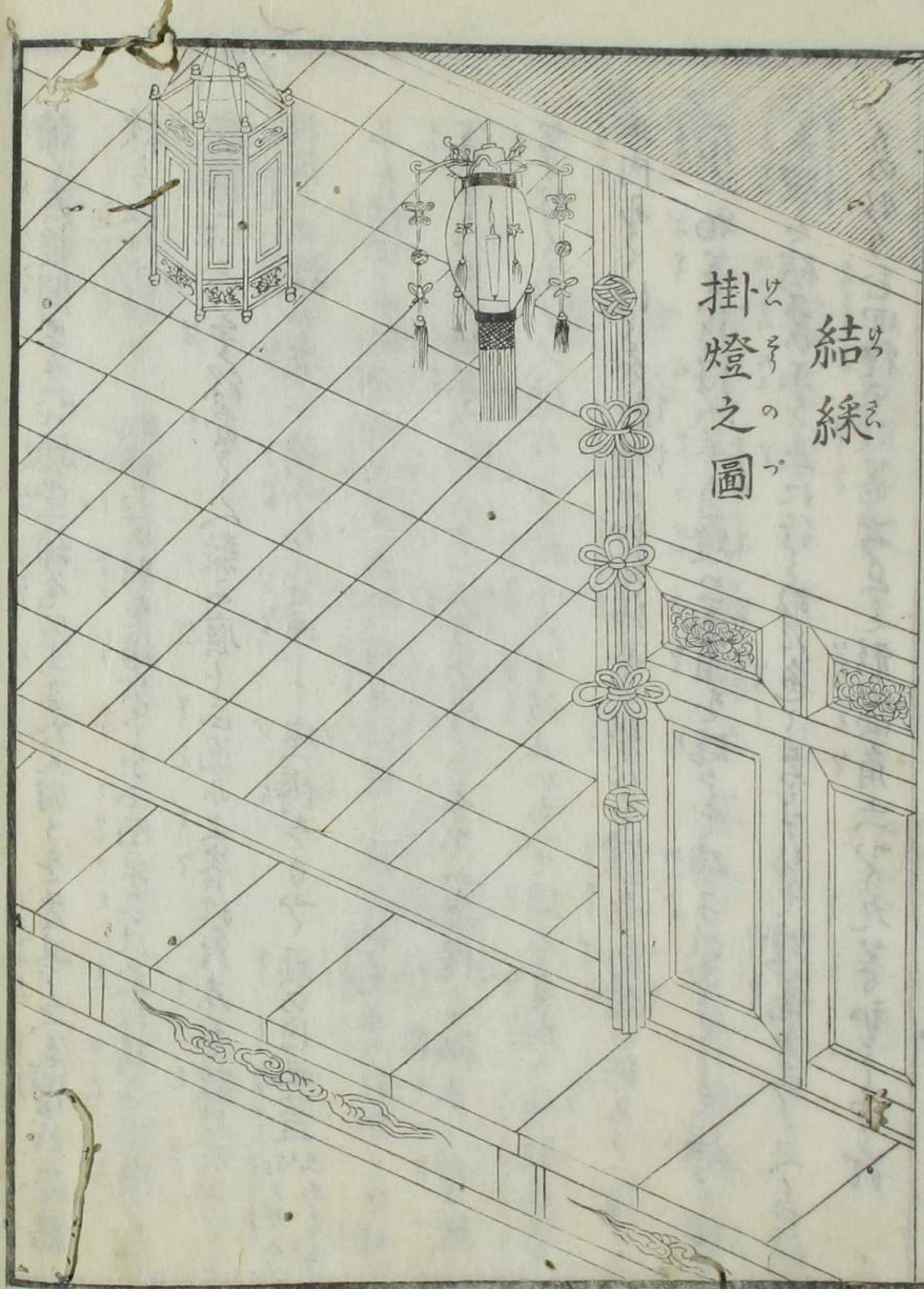
卽刺

○廳堂の高上框み紅緞綿ゆく水引を張て一間二間をほみに結綵一トハ
鋪毛のよし残りに紅緞を巻く冬向寒冷の爲め廳堂を用ひず暖閣とて
下の板あゆく四方ともみ風の漏れぬすみあつひたか座敷み毛籠成

鋪く居暖閣あらが廳堂鋪毛のよかんだんはうを參見之毛籠成
絲も紅緞綿ゆく牡丹花の形を絞び下が正面卓子け前に椅子を置上ふ
座褥二つ二つを絲安く人數み應ト正面小上客は座席を設け両側不
相伴人の數少應ト椅子を並同じく座褥をりて廳の内画蓋
ゆも諸所小紅燈紗燈羊角燈耀糸燈れど成りけ軒先ゆもねかづき爐
釜をうけむに椅子のひゞきの處の方位ホモシテ座褥を紙子天等紙
等はくちくら縞代入と椅子比才法水かみて造る夏向佳紋席香
牛肉ゆくほく紅燈ハ紅緞綿ゆく張たる燈釜紗燈ハ紙ゆく張
死人物等代縞小羊角燈ハ紅緞綿ゆく張たる燈釜紗燈ハ紙ゆく張
糸燈も硝子の玉を糸にほしめた色こそすがて燈釜をまくらあれ
りのひくを四種の燈釜つらぎ形ハ四角六か九等和と御

慶席也正面を上座と右位次位と左位三席とて正面お居き賓坐し時へ左席よ陞とたを次陞とて○上面より真向あるも下位の加ノ屋風あるひは左ある抑屏を立前小卓子を並大花瓶み花を生あひる種々の造花花を立て垂○廳堂の側書房小閣等みに正面み文字りあひり西の掛物代りけ卓子に文具書画の卷物書籍珠玉の細工物等をかざして垂○婦女一同招請の席内廳外席を設け傍食れ外廳同○勝手向の廳食應の多めお腹ト料理の用意をす。主人新ふ献え成行す事め一料理に一定の献えある。六碗八碗十碗十二碗すり壁六碗せん菜何れ此點心らあみく義理あハ思へずかく義つる定アある。之等の献えの事す。又は二つハ料理された者ありて争ふ事科理の呂敷者あり。次第飲食の部も詳アモ

掛燈之圖 結線
けいとうのずゑん



賓客坐位

卓子類設



○高位貴人招請の席は卓子一席か上賓一人別の卓子のみ相伴二人或い二人亭主下社少侍が中以下は卓子一席に向寄一人あひて二人を前の方に相伴一人あひて二人同卓子へく貴人あれば卓子に羅紵等にあ敷りの代案是方縁代あれ其之料理は排列を中通されば肴物代用ひは卓子ゆハ牙筋酒鍾磁碟調羹を傍てね盤を箸をせん拂紙のみ楊枝成一束で唇の包紙は角を折上之福壽等の文字を形て文字代不みを紅唐紙を用ひ酒器は一四一組で箸は數本度ト卓子のみが度同卓子とほどりて卓子二脚三脚五脚むかひ

○官民どもに皆卓子はく食事をあへ高位貴人を招請するとも食器を何物も焼物菜碗茶碗皿等あり食法は先右手のみ箸をそり度ふてそんふと肉の煮物肉類を喫つて箸を收め残り汁

櫻堂下首

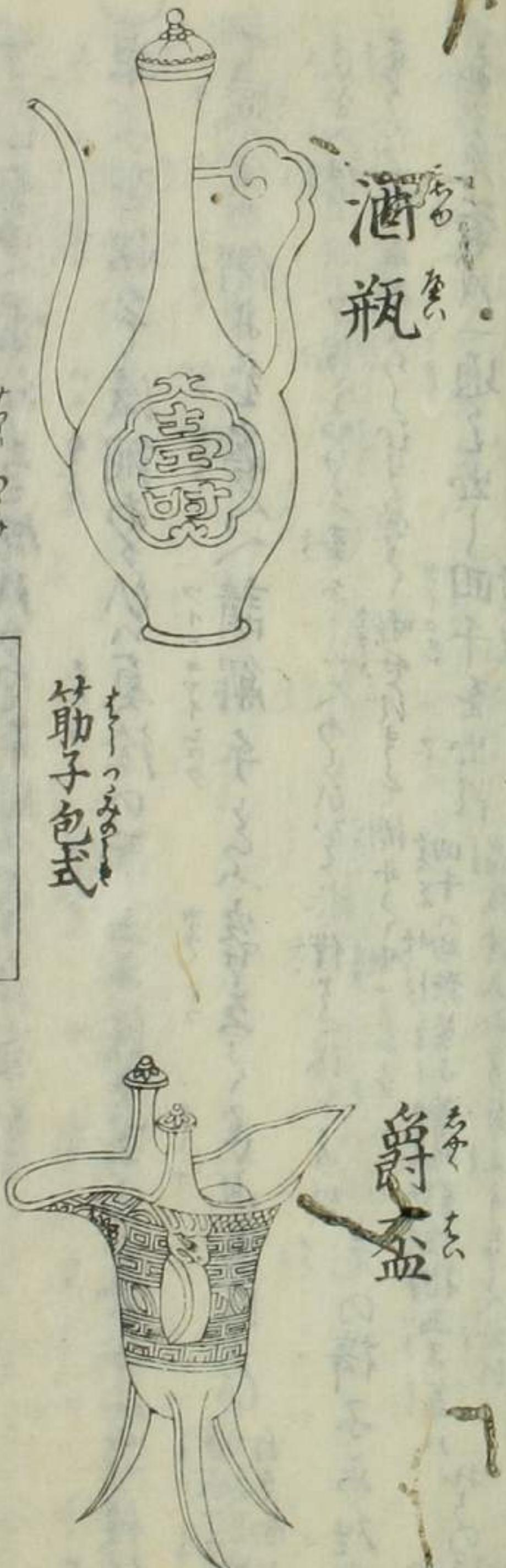
排設



をすくひつけを啜て後又肉を喰ふ事なし初めかけを啜て事無れ
又終に菜數出し時に一碗もどた以本れ菜へ引くを甚内み客の喫す様
事多くねき菜もとすまく引すみ残し正事もあらずとい殘すらともあらず
菜の出でるかよしめ本の菜を喫すか失禮ぢと九煮焼物等何方
より箸を下し何方どう喰効むなど不定めり萬字書外品くじまか時上
客すと相伴人(接拶する事も取し生物擱すと相伴すと上客に向ひ請う
と接拶は其時上客を請うとすく喫ほ又相伴同卓されば賣物出づかると既
箸を取るを宣すき而代擱と上客へ請うとすく上客箸伏下して是を喫ほ
多向字の席へ厨下より持茶の向物れ多ぬたをふ墨物み蓋を厚ひ持
かく卓上のみ蓋も並みらそ持へる
宜しき制限みされば好時候請過來と使を以て遣し客來家時み主人

衣冠をあらわむ先帽子戎者へを常の招式新しく花葉等を被らすに
賓主ともに礼服とて外み於一色等も論する事なし官人とも朝見大祀
の外朝服戎者も多幸事かし民間もくわたり貴人高位み見ゆかた常
服の外礼服すり客貴人されば門外近遠ひみ出中通りみへ廳堂口手を出
客坐と雙方一揖 挙へあひを如腰を かく腰えすとみをあひ
客とも今日相擾不必多煩あと挨拶小屋び主人を代挨拶 振る手を如腰
且請廳上坐とあく先みたら案内は客跡をあらび廳上小室を主人ハ下
座か歩く請上首座 上左手すなま
相伴の者出本れば客椅子を下さ進み代挨拶く恕罪とく相伴人も共す
ちもく挨拶す雙方禮讓ねらうそ天色和暖好爽阿涼快冷得駿累好天
下雨 下達 尊翁好麼 尊體沒有違和麼 長久不得拜候恕罪
立そく倚ふ中通と放へ何處坐と主人下仕の椅子を坐定で主人上茶
又ハ献茶とてバ賓不勞賜茶と挨拶す僕輩盆みとさせく一ツ洗くわ
物が葉を乗せ候茶碗に入湯を行て蓋成重覆ひ持物を茶碗より主人座を立く茶を
請取客の筋み持物が葉を立く兩手にてこうそつめに左の手奉茶碗を持布の
手にて葉成重椅子の腰を立く兩手にてこうそつめに左の手奉茶碗を持りて臂持ひ
あら主人拱手して請用茶とてバ上客も相伴人まぐ名辭儀をして茶碗喫
束を人を喫ほ客茶碗を既に持かず請收茶碗とて僕盆を捧げて出来事
各次方代を立す茶碗を盤めに持物を聲せぬやうに立奉りあり僕
手を引いたの客小脣代わけを跡を立てて引入茶匙の上客を歓待

も返すの時もえれあとくまうて返はるかうてすらむを向へ奉敬と云ふ禮と申す。此方より敬意をとひとゆめく向之を至するを第一とす。肴の自身好くわせうて喫はるをかびざとお肴喫すが事もれり。且夜うねと外み出まば卓上に菜籠を肴と酒も酔みなれ、鼓樂人を生一鼓樂唱曲イヨ キヤキヨ鼓樂へよしと迎仙客とふ樂を奏す曲兒ち醉花陰醉扶歸イホアインイホイロイ。酒令イ。ウリ酒令ハちつとばかりみ酒あるを衆客一枚イマシタにうなぐ。猜三ツアイサを催して酒錢進むツイシテ。猜三ツイシテ卓上にあらそひの紙子シナガあひ黒豆等の紙をとらて尋時にりうわれ共あらへて人酔ソラニの様カタと死むの中からて幾個カタうち対するもれかく西此ソシの様カタをやへて一つ二つあらひも五つ六つとあらそひのうちみ物モノたゞく白糸シロヒもた縫成シメルびて沒有ミコトとふ事もあら。ひそひそと見ゆる財と貯蓄シラフして酒代價シヨウカむづひあそられがいゝ。ほれあらむおれ御飯ミクニが



酒瓶

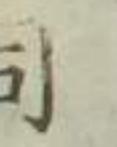
卷之三



賓客



張旭三杯
草聖傳脫
帽露項王
公前



筋包

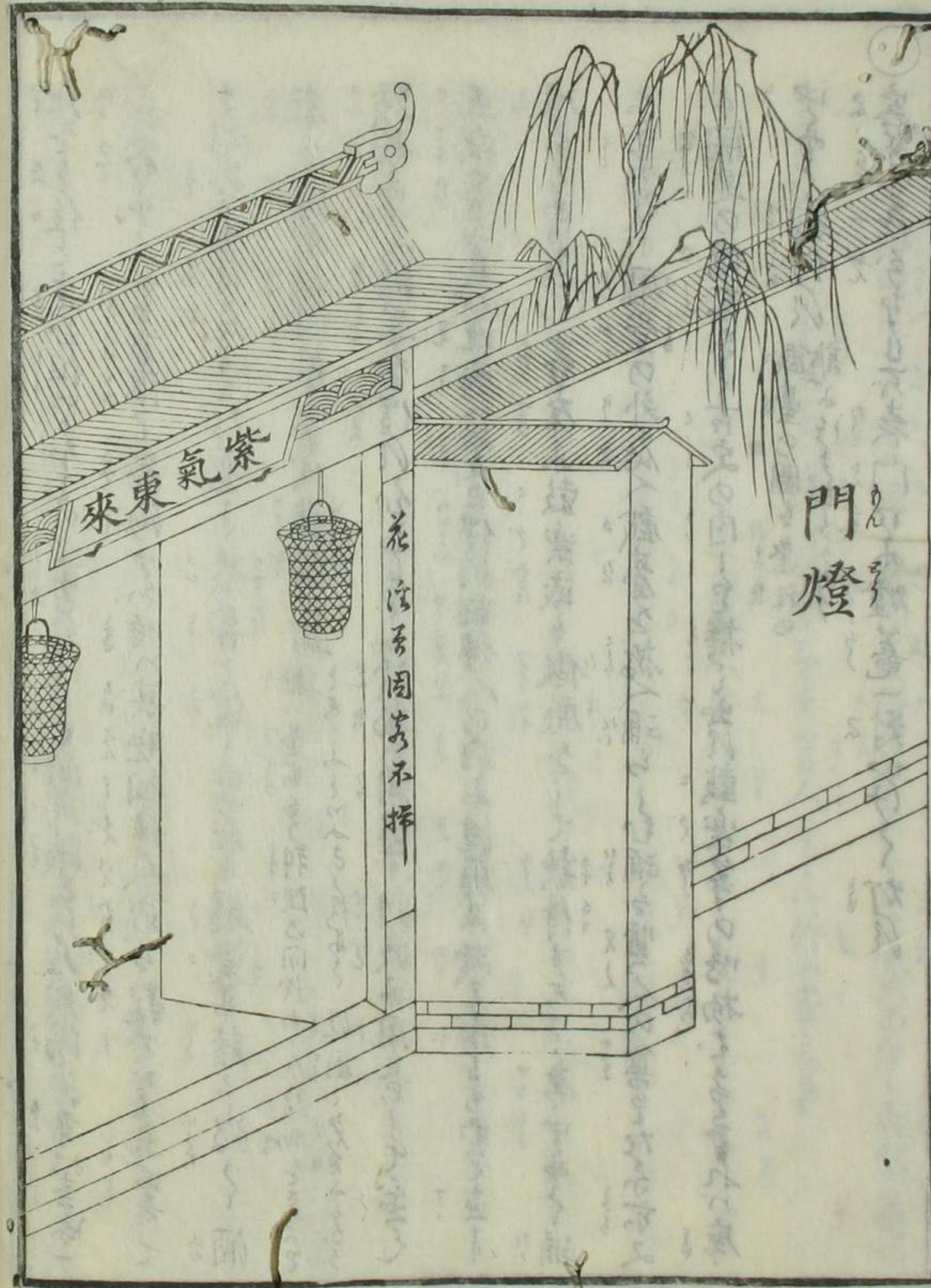


酒肉飽不必再費心と候候す主人豈敢無甚可口菜肴蔬怠慢得緊請
寛懷軒飲多茶數に入院かく兵公又醒酒湯を出一茶代ふにまく茶
を出一酒代多定式の茶數出されとは客請收席と候候す主人寛
早酒もすれどあり頃候成を差へと候候をよし客多くの酒をす
あ飯を一向喫する事あらずと辞退すがむとめうち承も格別酒量の
済き者多く酒代喫するもあは飯をそれば早手をねむ振舞ひ酒代事らす
すむかゆ最初を酒代りてお膳のあらじ事か

○卓子をねみて後綱あらひ真淵の面盆水湯を取く臺みをせ僕お出
て廳堂の側み至客へ請解手とく客を乞く水をしづく
手を入洗ふ指を湯をかけ事かし人わらひがれ僕と湯をしづくと
まうなまみあらうむす金く喫せびまく酒あく教すが事か
四千の砂糖菓子薬物野菜猪玉子等はその湯が
あるん常成一通を出一圓千至土は引成沙木疋う車上にあらべ出は

十錦盆とふた蓋を主人持出十錦盆と二筋五寸五分五寸八分五厘入子あらうが
二種の花瓶を入酒を盛りて寄めすし寄頬へ早速に相伴人領盆等而て
圓千れうちの菓子野肴青影を際は程合代見にからひて寄めす多蒙家盛設
實不敢當好收盆と候候す主人豈敢再請あらうと再三もとを席
を収む圓千れどもてス茶代出ほ葉を飲むて寄めす主人不ぞひて
今日相擾蒙賜佳肴多謝々要告辭とて暇あびて立主人豈敢
今日特蒙光臨多慢々ととすく互み一揖一客を代候して相伴の向
つて多蒙款待と送候候を止相伴人も拱もあく豈敢々ととすく
送る如か客請留歩と苗名相伴人へ廳堂口まで送る客主人おひいて
不勞遠迎と候候す且ば主人再容少送もとて门外まで送る出か客馬駕
籠をくま坐りて請坐轎請騎馬あらう候候もとを拱

多て取請聞るをも人又強く諸が客得罪とあそ其の爲めあやく馬駕龜み
事あるを得て至るも門内(引)まかで官人方にて行ふ事ある
座並ち上賓才一位みせし年長の人才二席みせし年つとて其の次みせ
す天親類一座あらび母方の親類成り次と父方の親類を下座
モ文叔舅先生おどり一座あらび子孫婿才子等の椅子みせせす
挨拶をえて後半坐又高位貴人宦局かる長を勿論と宦たゞも
我より排行のち長なるのみ年長の賓之へまく敢えずせば賓席成
廳の西面み能け不社み侍之は賓主も座候命して側み座に相寄
の賓へて對坐して見ゆ尊長の賓二人ひよの席の正面真向へ一席右の方
二席左の方(三席と頃くみ能け侍應此席へ左の方)一席左の方(二席又
右の方(二席左の方)四社と頃くにゆく賓主共向ひの時只右を賓位



門燈

○客貴人あはりが主人其相立日事外禮みゆく。昨蒙光加焉蓬壁生耀特
來拜謝と承る。至宿ありば堂本請ふ。見文。昨蒙厚待盛設多謝々
かうて挨拶して茶を出候。旅館にて。宿主は意在宿せられ。禮みと申すた
ふう。次に者へひねてから。客方も翌日又一あはれ内禮みゆく。
雙方ともに礼みゆく。紅唐帯本名帖を持ち。親友等の請酒の礼。
名帖みれよ。貴人へかうて名帖を用ひ。

○婦女の親族の外まゆ。奉あはれ親族たどと。男女同席する事無
帰す。かうて内廳内房ゆく。酒宴をあげ。

○年禮甚外諸況言或見舞等にあはれ寄かは主人を扁すれば。廳(請
し見)人達出。親しき友人あれば。有合の葉物二三種も出して。旅館
居の客の廳堂口までわざと相あはれ賓を対座ゆく。見ゆ。

○

吊喪の客きめに親友おなじゆにあらざれば見みか來くわかまし

差親りさきをあらざませば昔室むろみ請うけ

一見ひとみも廢ひままふねくまか來くわかまし

吊客まつぎやく本もとは主人しゆじんへ射のし一揖いそして果こし

不淑ふしつと候まことに移いす主人しゆじんと人ひと言いれして果こし特蒙屈駕とくもうくげ多謝たしゃと互まみ礼義れいぎ

手てて椅子いすみ請うけし詫話わざはなしめねば ○ 吊喪まつりめ支配頭役しはいとうえき等とうの別べつして

熟密じゆみめあらざまればあらざま吊喪まつりの客きせ着き候まも常つねめかまか來くわかまし

帽子ぼうしかまか來くわかまし鼓樂こぐら豁拳はくけん等とうの酒宴しゅえんも

もうち拓諸たくしょは禮會らいくわい素す菜なあまし止と外ほか礼讓れいのう應對おうたいの言葉ごんばは御ごの酒宴しゅえん

み等などかまか來くわかまし鼓樂豁拳こぐらはくけん等とうの酒宴しゅえんを賜まば

○ 平人貴人ひんきんが見みゆる所ところ披露ひろう前まへ名帖めいじつを呈ていせば見みゆる所ところ貴人きん

名帖めいじつを呈ていせば見みゆる所ところ時とき小的こてき便是びんぜんと宣言げんげん服はなよと披露ひろうを呈ていせば

かま辞揮じきの貴人きんの品しなよりて一拜いつぱい或ある揖いそ三拜さんぱい或ある叩首こうしゅ四拜よんぱい不等ふとう

高たか俊しゅん貴人きん臉光ほほひかりの第だい門もん外ほかみ出で延の揖いそて又またも成な拂は見み請うけととふ客き

各おなれて立たまま先まへ大だい門もんの真ま中なかを通とて葉肉はいろは當其時そのとき路じを通とて

行儀門ぎょうぎもんの中扉なかひを昇のた中道ちゆうぢゆうを案内あんない廳堂ひどうみ至いたまま廳ひの外ほかみ立た

あま如ご請うけとと其時そのとき客き立たまま廳ひの外ほかみ立た

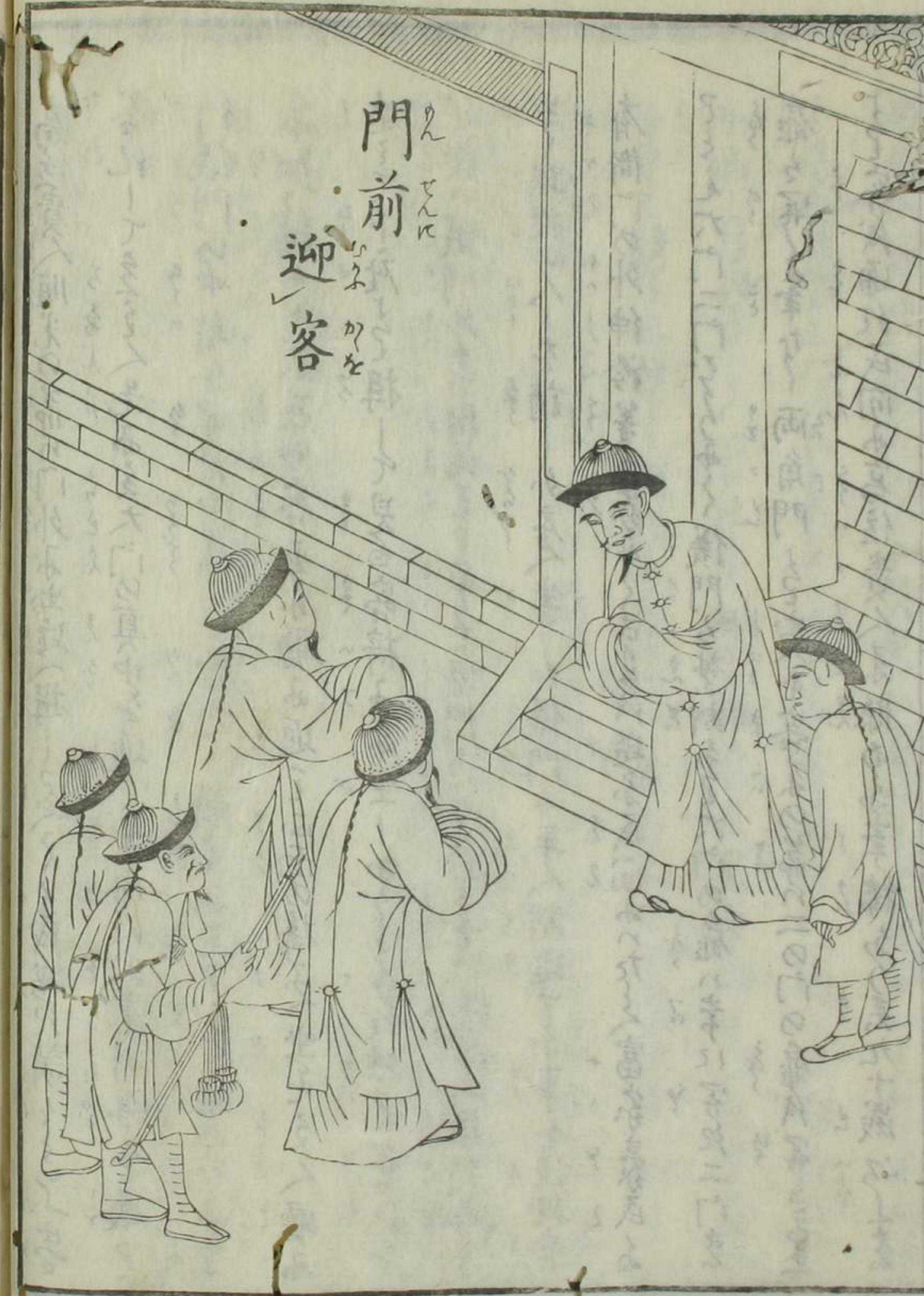
進すすて下座しやざよよ揖いそて見みゆ客き椅子いすみ坐すわてかかううも成な拂は見み請うけととふ客き

跟つ從づハ儀門ぎもん外ほかを附添つきあととりて儀門ぎもん内うち入いて方かた付つけ注しゆ官人かんじん儀門ぎもん外ほか

出でく跟つ從づののを請うけとと外ほか房ぼう坐すわて儀門ぎもんを平人ひんじん製造せいぞうすす車くるまを得と官くわん

府衛門ふえもんの外ほか紳衿しんぎん等とうの家いえととあり成な造つくり系けい民間みんけいみたとと富家ふうけい豪民ごうみんとと車くるま得と官くわん成な通と民みん向むか高たか位い貴人きん來くわかま車くるま稀まれあり三十さんじゅう十じゆ歲とし仰あまる

門前迎客



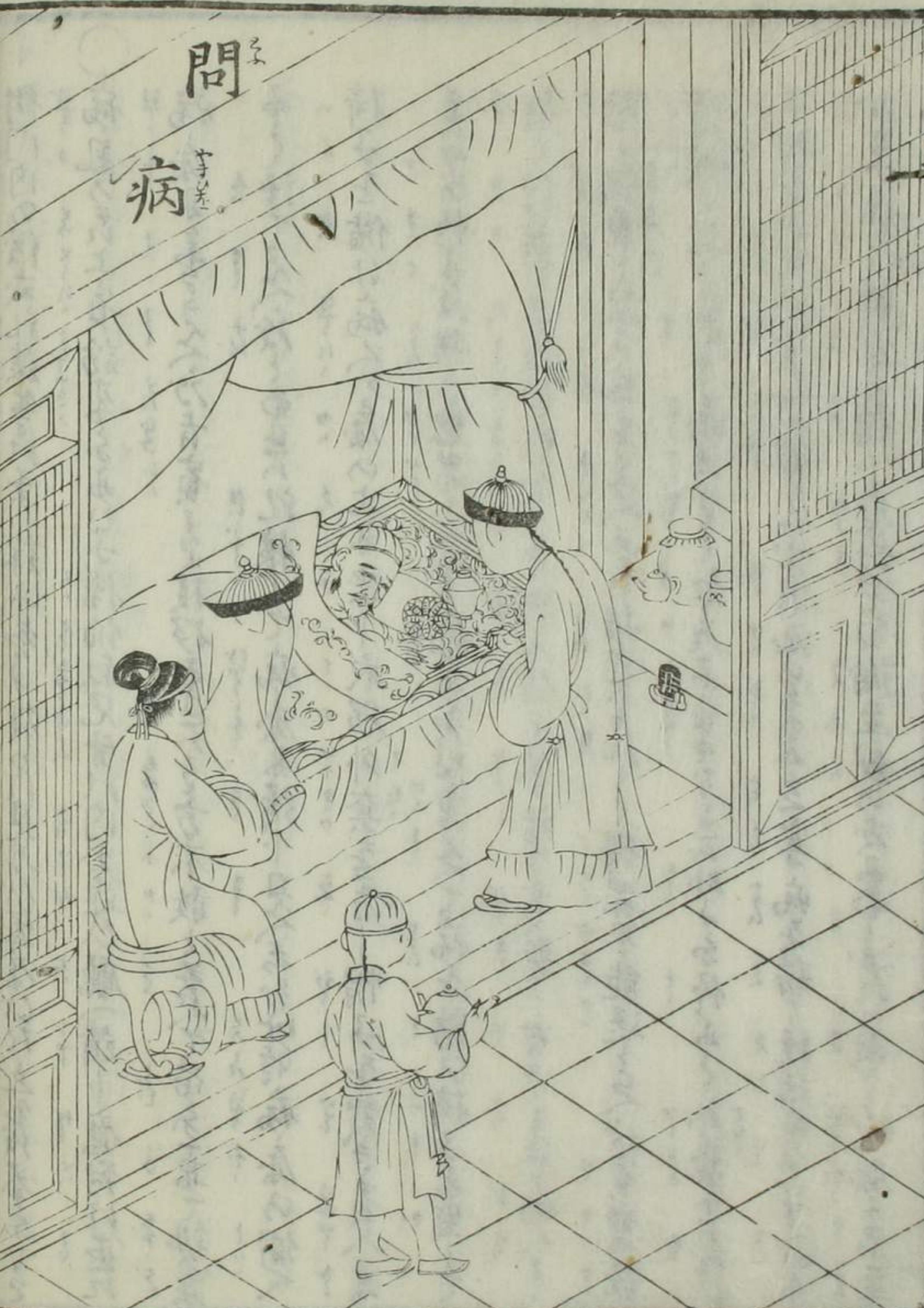
老人あかう又ハ功徳あり或ち孝子順孫等多く格別の叙りて朝廷より旌賞シヨウショウ小あいもよしかはめみの官人クニノウジンを來院カムイあひ一度官人クニノウジン來院カムイあれ
在某家スミハヤシ小儀門イゲモンを造る事免許イムキあひ是ち官人クニノウジンを通じたをあひば往經スルシテ聞て官人の來院カムイをうきに聞スル○高位貴人カウイケイジン小あいとモ先生セイジンが
老人等カジシタガタ小見ミムり主人シテ門外モンエ出ハシム奉マサム事トシあう其外朋友親類等クニイワツウフイリ來院カムイ
至廳堂テンダン口まで近アツシテも門内モンナ入スル也タリ廳堂テンダン通スル至アツシテ見ミムゆかもシテむと
やく従スル親類クニイワツ廳堂テンダンへスル也タリ廳堂テンダン内シタ房ルイ内シタ室ルイ來スルもあひ主人シテ至アツシテ有スルせ
止ム婦女フウジン見ミム之シテ廢財ヒバツイ親類クニイワツ外スル婦女フウジン見ミムゆか奉マサム事トシかし
○寄牛キヌかと紀馬駕籠カタマカタ等モ多く事トシかと馬カタマ大門オウモン前モリ下シタホーシタ小廝コウス人ヒト
附添テンダ廳堂テンダン小至スル小廝コウス人ヒト堂ドウ口モリ主シテ人ヒト堂ドウ小登スルもたらとタラト當タガ側タガ
止ム有スルちん並タタキに退スル耳房アリワ小部屋コウベヤありひ厨下シラタカ休スル息スル以テ民間ミヤク也タリ

次第なう門番人も民間から大戸前へと車あり
官府向う馬駕る毫大門前より下まで大官たりとも諸衙門が大門
内までとまし事を得ず馬駕る毫大門前も下まで時等の式を
見かまに涼傘旗執事等の通具の喝道先立徒士旅供四門前も
左方より上りて左門内み進み入る所へ親隨近習と
四人附添入る所此時らしく當成廳堂（登り時親隨もあづび登りを人の
左方より侍立し御食應等れ高き人より命じて退かむ時み堂を退
きて耳房み入休息毛を足ら民间官人來院の式あつて美官府（
たゞ官人同士對面の事即ち親隨堂外登る事を得て儀門まで附てひ
見立れ退くなり門外みゆくと云ふ供事の人門内み入を待て諸道具
を架子み抑へキヤウフウ諸官府門前み通具代アウリイフン
を架子み抑へキヤウフウ足軽旅居と云ふべき所に入と休息は

を賓主候落敷御みわよぶう又ハ御食應等あり席上延引すれば供飲
是すかも仰り又と云方より酒飯代出候もあらず或も下部旅く承近不
の喫茶店等に於酒飯を喫するもあり供席もとて親隨の席らず是
非主方より酒飯等先づ酒宴承招請したるに於耳房承体ひが客敷
門番人ら賓宿本かを見そ内入と何官來到と候官子告知す親隨風に
のうへゆく人未達は大門の諸官府ともに晉の内へ門を塞きつり儀門斗
守てひり儀門の高官あらず通ふ事あらば若儀門より通ふ程の官來候
あ止バ門番門戸を塞て並直耳房(躲避すかう)店人の通とて門番
周通す。其のまを隣て大門番(も内)告知せ並て耳房(躲避す)門番
ち大門皂隸儀門皂隸とて皂隸(足輕)番人別あらず勿論民間やくハ奴僕
の剥代番人たる金是の大門儀門ト列あまもなく一人ゆく而か行

○御門内の儀式礼儀等は事の詳本知る能見乃び年及び名號奉承アリ定
病氣の衰上賓訪事かゆハ子孫伯叔兄弟内出延ひ廳(靖ト應対)に坐て
病床本席アラシ方肯就下を接候あ止ム是方不敢と言て扇を再て被窓
ゆく後て又(後)とあ止ム礼儀して病床承靖ト見て是即時病床の側へ
椅子を備け病人の床の上本坐一衣服外套を着一帽子を戴き貢入來
坐の位を成拱手禮罪と云はれをあほ身にて上物を蔽ひ椅子承坐して
脇く始終は子孫伯叔兄弟等側内侍を答候す賓暫く有く主て病人ア
對し保重と云々生か主人を抱起云ひて得罪不能送と云は賓豈敢
請便と云々別々病床重く起座不自由な事無く修みく外套を覆ひ
子孫等賓に向ひ恕罪と云賓床の意本意害病を蔽ひ候話承不守直承
知る子孫等廳堂承靖ト應対を勿論至親の友みあらず敢く病床承不至

初て人を訪おとかみの紅唐紙の名帖を持も門もん外そと至いた貴人きにん高たか位いの家いえあらば門子もんしと表門ひょうもんの番ばん人じんあり是これ小名帖こなじょうじを投なげ一某特來だつらい拜望はいぼうと達たつし終おひりと
 穎なまし入いる門子もんし名帖なじょうじを受うけ取とまと人ひと違たがひ至いた達たつと思おもへ廳ひやへ請うけまと云い
 門子もんし坐すわく請進上座じょうざと坐すわく案肉あんにくして廳ひや坐すわか時とき至いた人ひと出で途と見みゆるよ有あ
 又廳ひやへ請うけト並なが坐すわく見みゆるよもあつまま人ひと出で事こととび客き一揖いつぎして夕ゆふ仰あお高たか名特めいとく
 來くわ拜識ひあいと不ふ至ま人ひと豈いか敢が有あ失なき迎むか近ちかと坐すわく言ことれれて互たが小叙話こじょが至いた人ひと請うけ坐すわく
 あくあく椅子いすを多おほく客き不ふ敢がと礼讓れいりょうして坐すわく至いた人ひとも離はなれて談話だんわ至いた貴人きにん
 の方ほう小引おひき見みゆるよ時とき客き解わかく坐すわく見みゆるよ人ひと途と出で事ことああ至いた廳ひや坐すわく椅子いす
 み坐すわく待ま客き來くわ見みゆるよと禮讓れいりょうして候まわ椅子いすを放なげし言ことれれす客き見みゆるよて候まわ一請いつぎ
 坐すわく主おも人ひと度たびして僕わが椅子いすをうけ客き半はん身み一いつ先さき坐すわくとくとく小客こき再また二ふた
 礼讓れいりょうして側そば小座こざ一ひとつ放なげて對たい度どせほ主人しゆじん居ゐかぐく客き候まわ當とう拓ひらく上じょう司し



府へ下司は官事の時の儀あり其外は尊卑異あるとも多くある事
出處ふりうる○廳へよきに東西の階等は式當時か
起宴私行等の節は武官たゞとも常歎せば武官の外諸官人部を常
歎すか車かーを民間ゆくの常歎禁制ある

附錄

○臺席斗れ類あらびみ雜煮又は高盛て五三かどくの影の車飯の湯
等出は車都くわ
○引蓋又は袋重荷を依せあらひに洗ふ事あらび小の長の制拂子は
柄袋紙ゆく包み又は加等は車給仕の仕事等の式教くわ
○料理の内物あらび類の事かー○夜客お童子秉燭の歌あ
らび小燭晏出は車かー衣かの燈籠を撰坐あり

○年紀の多め喰搗磨年あと出は車かーアリヒみ從言の看板常服小か
多か車かー 屏風多めあらびに画文字ちは用ひ不善別かー時
隨ひ用ひ○床邊棚袋棚あらびみ諸物等は制無く傍付小真形
草等は別あらびに二奥足喰鐘拂子又は拂子書画軸物文具類等
の品傍立候定式かー詔見立候才恰好よく傍立候とあり二奥足五具足
苦に傍立候事あらび別して儀式かー掛物と二幅対二幅物一幅物文字
西等小石列形一乞角請客の意の候意は掛物を廳堂へ用ひ書房小
閣等みの秀雅の文字西等陰機意在承用に論ド羅一掛花瓶ち
多く書房等は柱小掛か廳の柱かも周もか車あり一字かわらば廳の
ちからみの多く聯を掛け茶玉扇袋等成縁事かー
○瓶花の式先前枝數本數等は生方あらひみ見手の等は儀放て當時

初か者かへ唯時候は草木の花を色々多く分み挿し置すやう

清俗紀聞卷之九

清俗紀聞卷之十

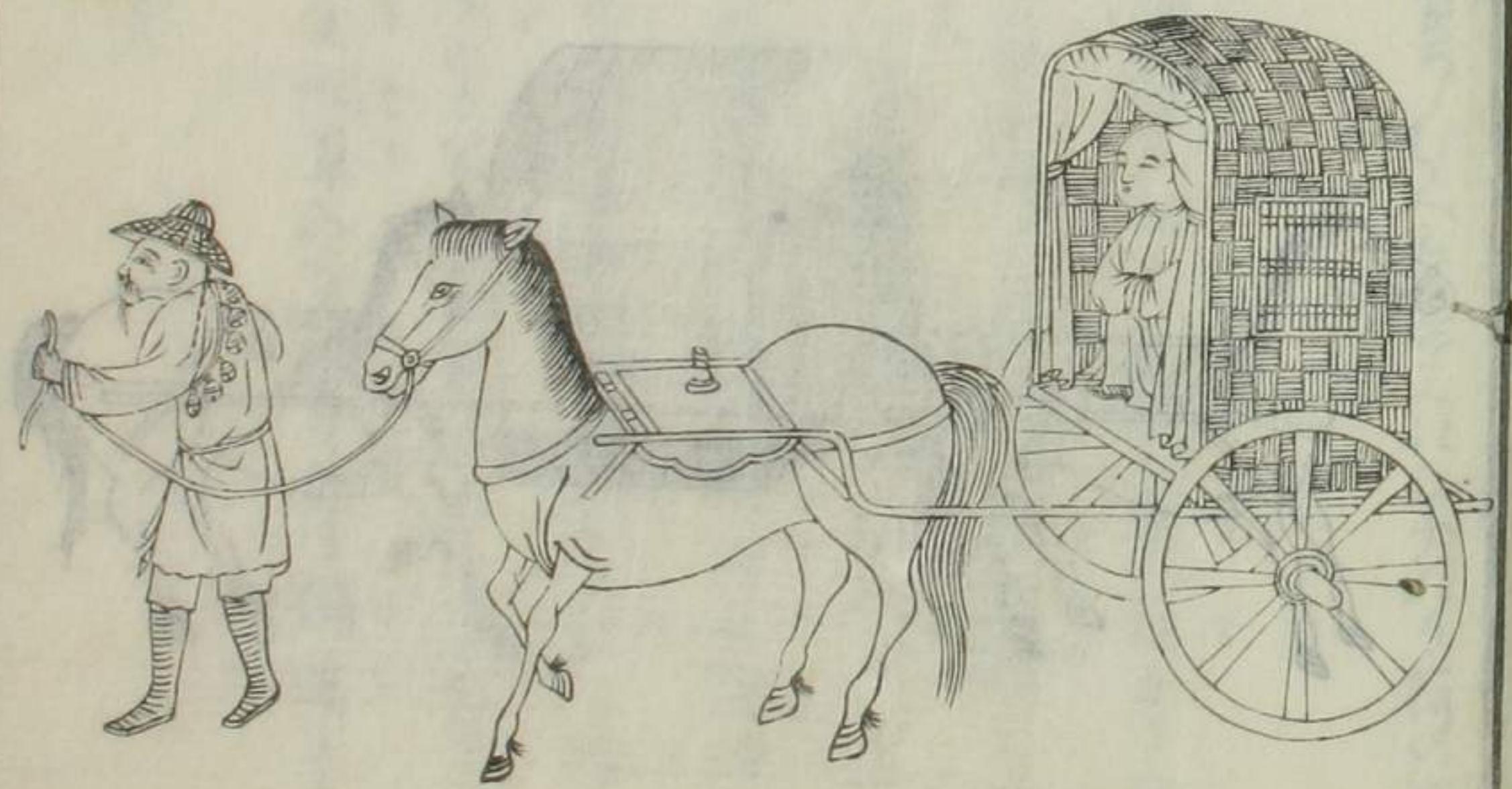
羈旅行李

○江南浙江等の諸省は旱路より二十里も三十里まで三百六十歩を里とす一歩ハ今のかくよ
と同一但一里ハ此方の曠闊僻靜の所とすかへ二三里完固せ至る村落あり村落あり
六町弱みあるがへひとぢるれ舗通あり是を一省の内に用向ふ通達する舗場ある舗司と頭分の役一人舗書
舗通あり是を一省の内に用向ふ通達する舗場ある舗司と頭分の役一人舗書
とて書役一人又其村の百姓五人或は十人宛て役を取足を舗司兵とす
又京師みハ堤塘より役取あり一省ごとくを設け金少く十八分一引ありて京
師の済用向等在其奉省通達するがあ先み其奉省武官舉人を遣し勤番せ
も京師より奉省までの路程遠き而り半四十五人近見四十人斗も相諾也
勿論文書等通達の事あひ勤番の舉人承て驛站を経て其奉省より
ふたり譚站も八十里ありひ百里に車馬の舗場あり是ハ允欽件
天子より出事之

件上司を公文省次代ひく諸省通達へ又々欽差小差み至る近通行の爲め設
ある人馬代分撥するに於りを所みて総場の里數遠き所の腰站とて間は總
場ゆき専ら馬匹は瘦どさか筋め奉澤を設け立てぬまく村落の内場石室等不
の民家を用ひふたりと摺して勘合とて此方の御證文の如き物あり大差ハ無部差
差官有て右勘合を持行小差等ハ其官員自身み持行を出立改て坐起馬牌成
差立て候り至る所の譯站此牌の數み令せん馬代用意一某が持來る勘合と引
合及散差み至りてて起馬牌あく自身立て勘合代候く該站より時に
人馬を出立しむり候の太小に從く馬匹の定額あり或と百匹ありしハ百七匹と
定む此頭分は候一人足を驛逐とて次も書役五人あり是を驛書
より馬醫一人あり獸醫と/or又馬夫あり疋書の一匹の養ひ前馬六十四匹あり
馬ま八人あく一人の者より八匹あり此八匹の中も官座とて主人の者
き馬一匹次も駕至馬とて急用早打み用ひる馬二匹包頭とて駕荷を附ふ馬一
匹又小差馬二匹あり大官もあくまか少く其达行も自らの手下とて散差馬一匹あ
右馬夫八人の外も四人あく春暮の方に助を勤むる定数の外もり人馬入用の時
其利の百姓ゆけ付く是を出立むを民馬と/or民窓の人馬車船ハ皆相對よ
候ふ立ゆく此澤站の與りを有みあべ民窓の宿毎み井行とてよりの數軒ある
あ足ゆく宿ひ如に民間の先觸汰貸帳あるが事ふ一諸民私用の旅行
ち井行よし牙行まで多くも多くは後日立候ゆく泊すで立候ひ切あり右貸錢も
驛馬終日雇ひ切ニシテ驛馬ハ一里一文の積とあり但車ハ驛二匹分の積ある一日
六とあり人足立日百文を成擔すと/or二百文あり荷の重さ九貫圓と定む是を重
き荷物を驛馬を立候の運馬の負ふ石は荷物重き四十貫圓と定む轎子ハ一日六百文
あり但轎子に大あり民窓用ゆる所の如たへ皆小轎あり又驛轎とて轎子以下

轎旅

き馬一匹次も駕至馬とて急用早打み用ひる馬二匹包頭とて駕荷を附ふ馬一
匹又小差馬二匹あり大官もあくまか少く其达行も自らの手下とて散差馬一匹あ
右馬夫八人の外も四人あく春暮の方に助を勤むる定数の外もり人馬入用の時
其利の百姓ゆけ付く是を出立むを民馬と/or民窓の人馬車船ハ皆相對よ
候ふ立ゆく此澤站の與りを有みあべ民窓の宿毎み井行とてよりの數軒ある
あ足ゆく宿ひ如に民間の先觸汰貸帳あるが事ふ一諸民私用の旅行
ち井行よし牙行まで多くも多くは後日立候ゆく泊すで立候ひ切あり右貸錢も
驛馬終日雇ひ切ニシテ驛馬ハ一里一文の積とあり但車ハ驛二匹分の積ある一日
六とあり人足立日百文を成擔すと/or二百文あり荷の重さ九貫圓と定む是を重
き荷物を驛馬を立候の運馬の負ふ石は荷物重き四十貫圓と定む轎子ハ一日六百文
あり但轎子に大あり民窓用ゆる所の如たへ皆小轎あり又驛轎とて轎子以下



車轎

車
轎

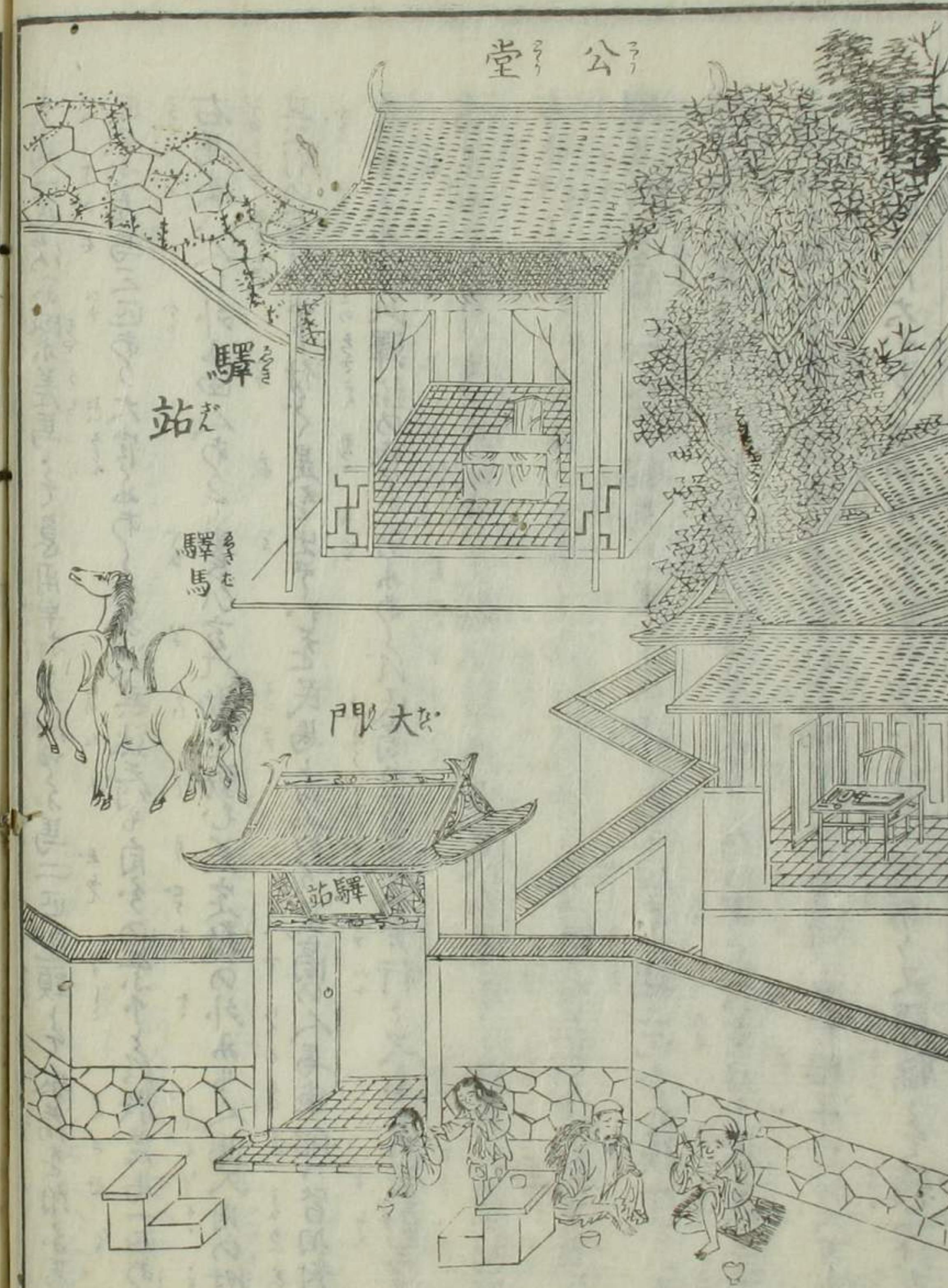
公堂

驛站

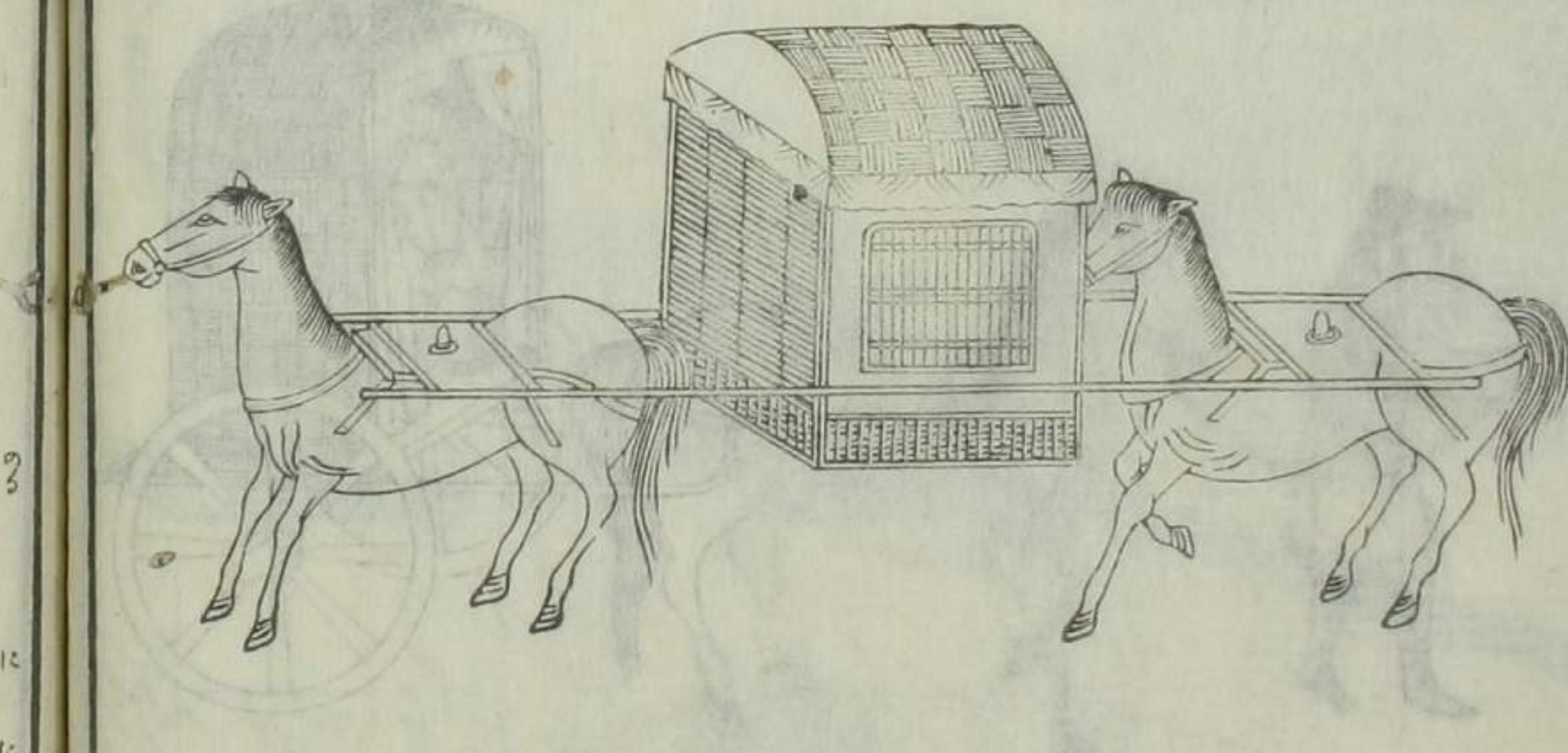
驛馬

大門

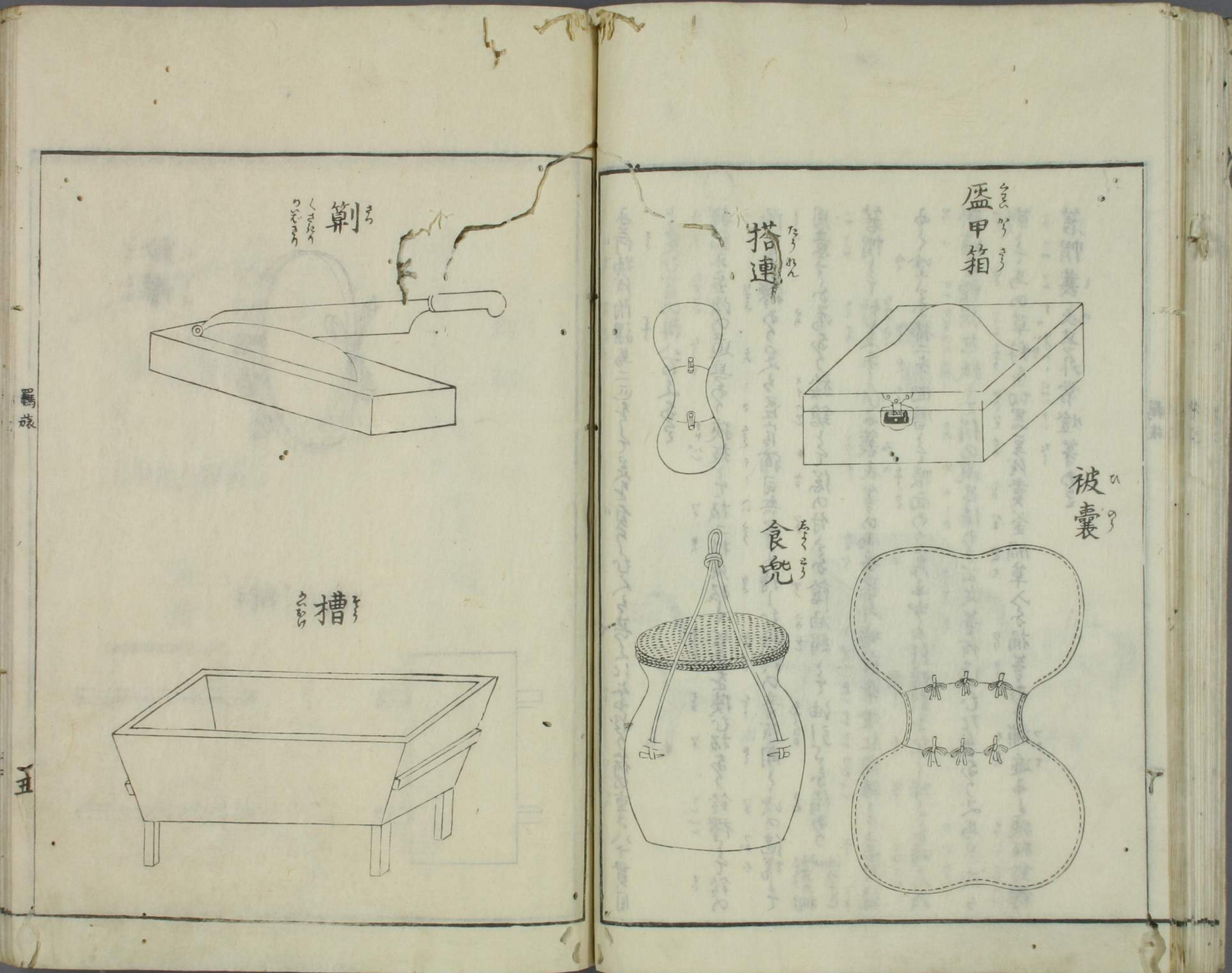
驛站



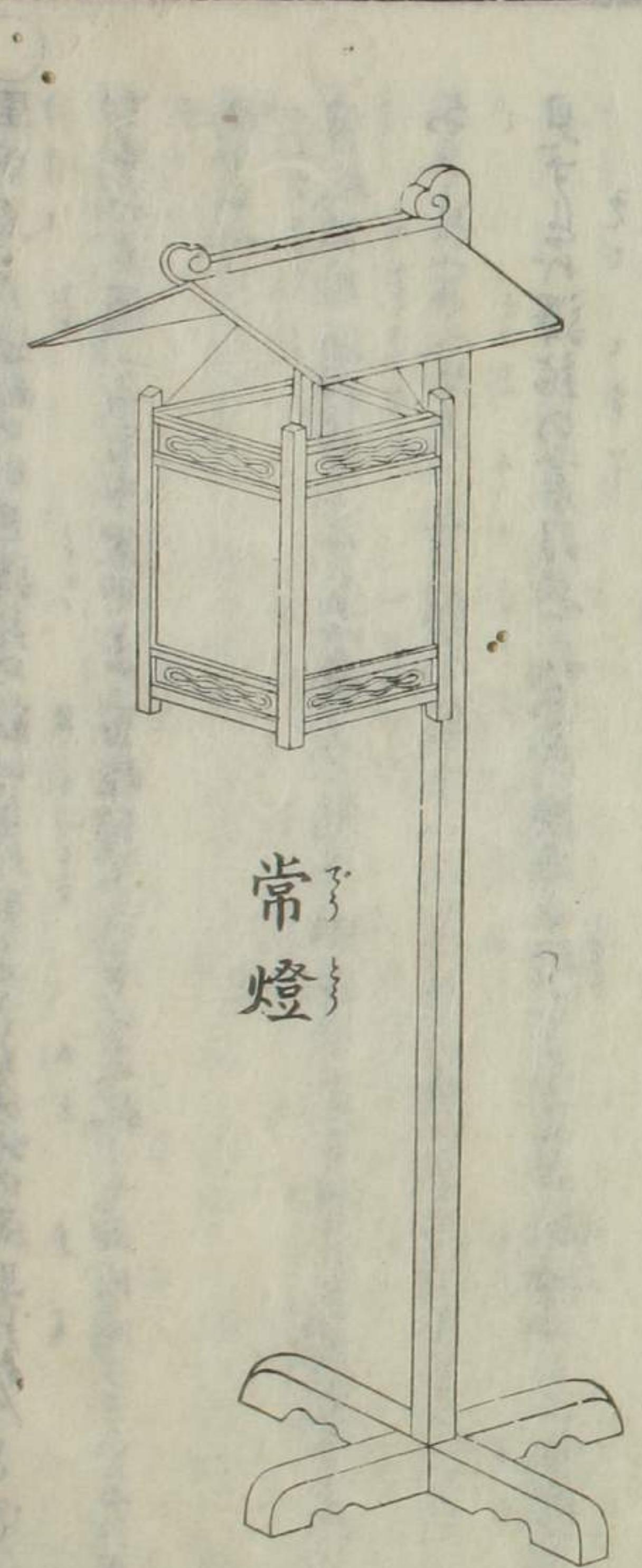
驃 輜



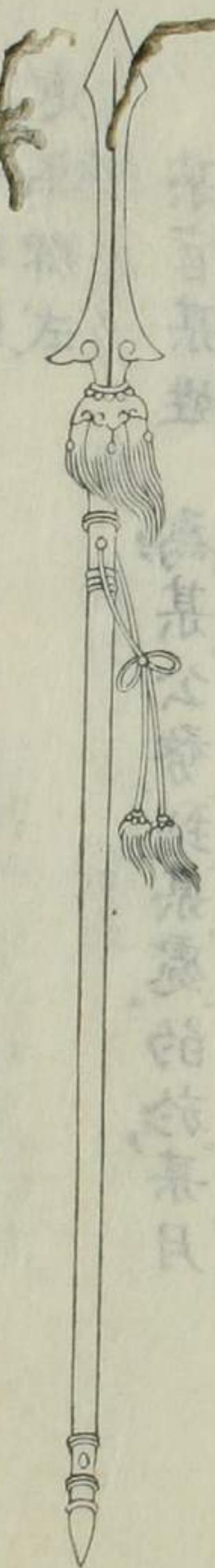
○ み何物代附譚馬二匹をもて足を負うむへり高とにあはう荷の重き八十貫、同
と定む一日の料八百文ある
驃詔小至附の道具あり狹板と板二枚代ひく公文を挿む板あり鈴檣とて鈴の
附属か檣あり足ち差遣官補司兵等み持しむ此役の音代聞く次の總場まで
用意すか為あり綏鎗とて総の付る鎗油絹とて油引とて緒あり此方の桐
若帽とて竹笠あらびみ蓑衣等の雨具立外時計常燈紅問棒とて布袋
あく余るる棒二本回唇とて帳面あり表外ゆめ此時刻を記し帰る時辰
掛消を輕絹包紙とて絹の風呂桶あり公文等代ほむたをあり又馬具或り
剣とて馬の草料を切墨豆代煮釜桐草入を桶等あり補遙かと狭板鈴檣
若帽蓑衣立外常燈等ある



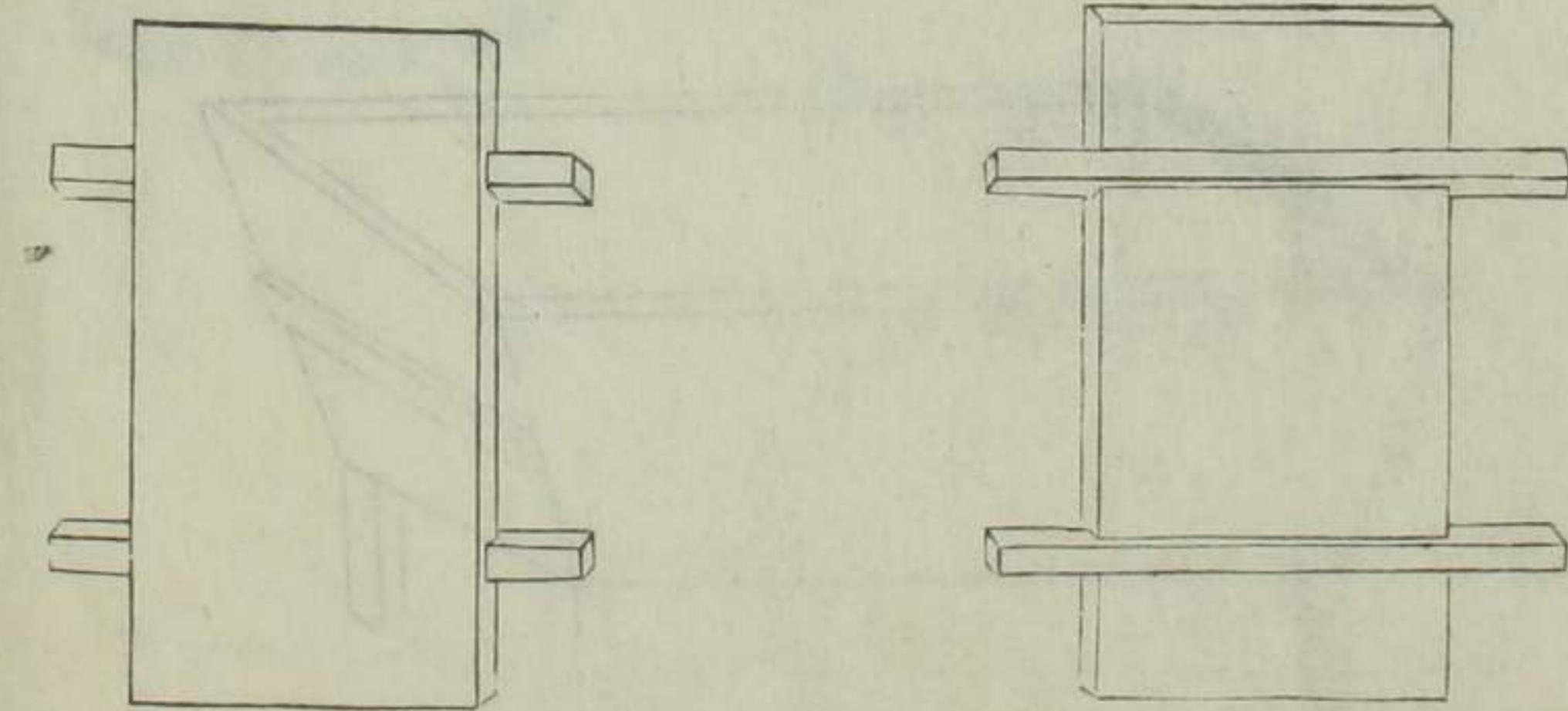
常燈



綏鎗



板狹



鈴檻

○里甲馬と邊鄙の州邑譯站の設けられた所々の地の民馬代りと通行せ
たとけ小備ふさとて里甲を百姓頭ひのとの支配して出し閑くちと里甲

馬ゆふ

○官人公用通行のとくに自身とて起馬牌をすすめ此方先觸のとくにもの
ある其官人出で二三日以て家丁一人を雇て通行の譯站とて右牌を取
見すとび譯站の書假其文面に帳面抄きすとび抄牌すと此牌を應
じて人馬の手當致む

起馬牌式

某官某姓 為某公務到某處的於某月
某日起程一路所有應用夫馬合先遣牌
知會爲此仰役前本署落該房吏書照依
後開夫馬轎槓名數一一喚備用過領給
工價毋得遲悞須至牌者

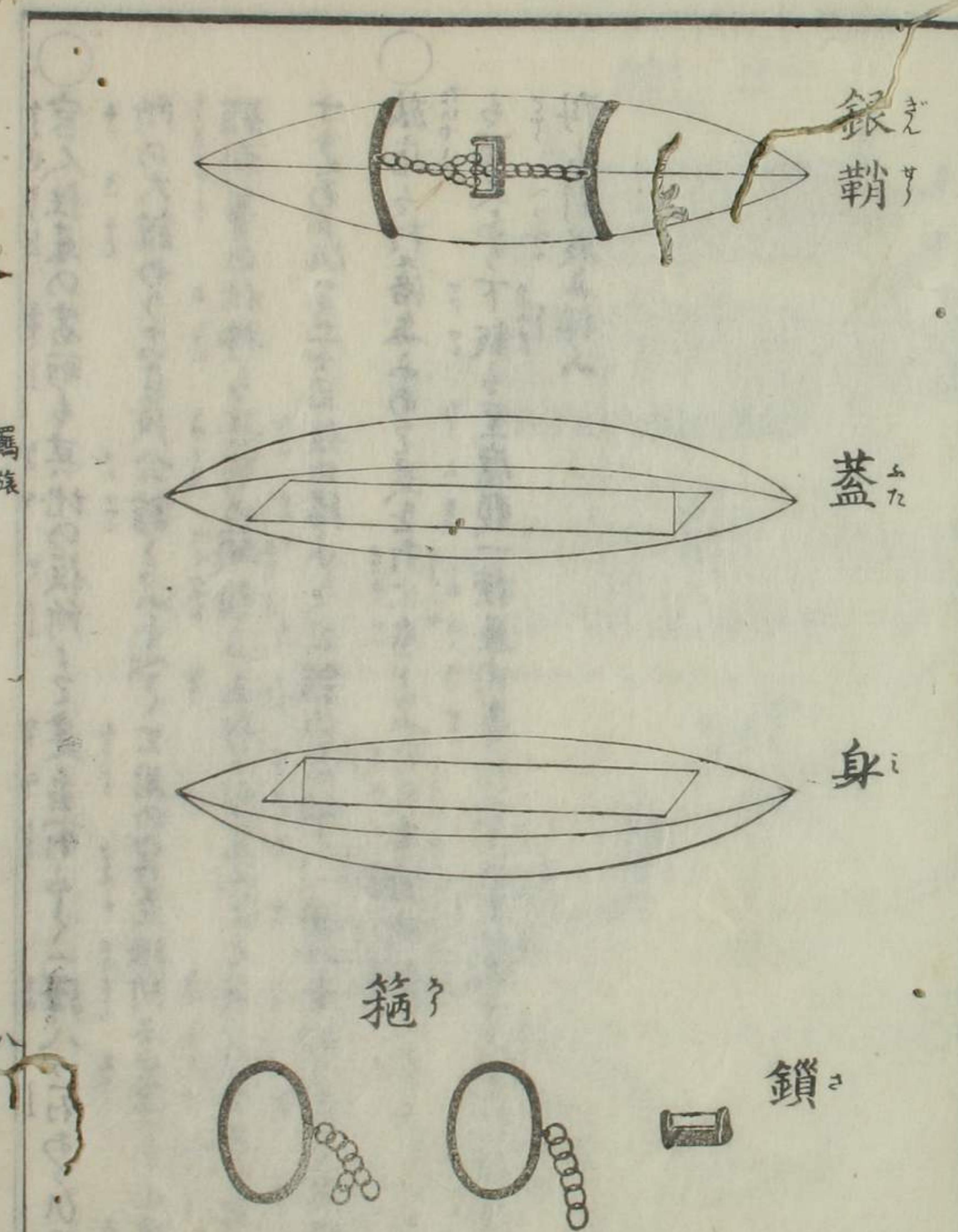
計開

轎幾架 馬幾匹 夫幾名

右牌仰該房吏書准此

年 月 日

○大差の欽命公用の大臣或は異國の朝貢及び督撫の往來等を不隨從の素
馬等は其馬を應じて等差あり凡一品二品の大官ありとてとも裏向の官府より
主人の用馬と散馬と隨從の素馬とありて九十匹あるべからば其餘を皆自ら
入用ゆく石連ふり總じて大差小差み拘りば公用ゆく通行の時り人馬の
貨錢拂方候はば其馬を譯站にと官府より手當あり事あり
○緊差の軍機等急ぐ事を促進する時切の早打あり武官の内差官も



図版

高文書成事て後進往來を役あり足多の丸一昼夜六百里行く定む
火牌ホイ火速ホツスありと至極急事ふ所用向ふ用ふ文書ガシマやねう足を公文ムニシに付し上アシマみ鷲スズメの羽代ホウダ御ミコトゆく临タマクる急ハヤシきあらふ隨スルひて羽代一枚宛マサニ拂マサニ但シテ一枚イチマサニ七枚ナナマサニをある

足を火牌文書とふく右の緊要キンヨウの事モノ有アリ

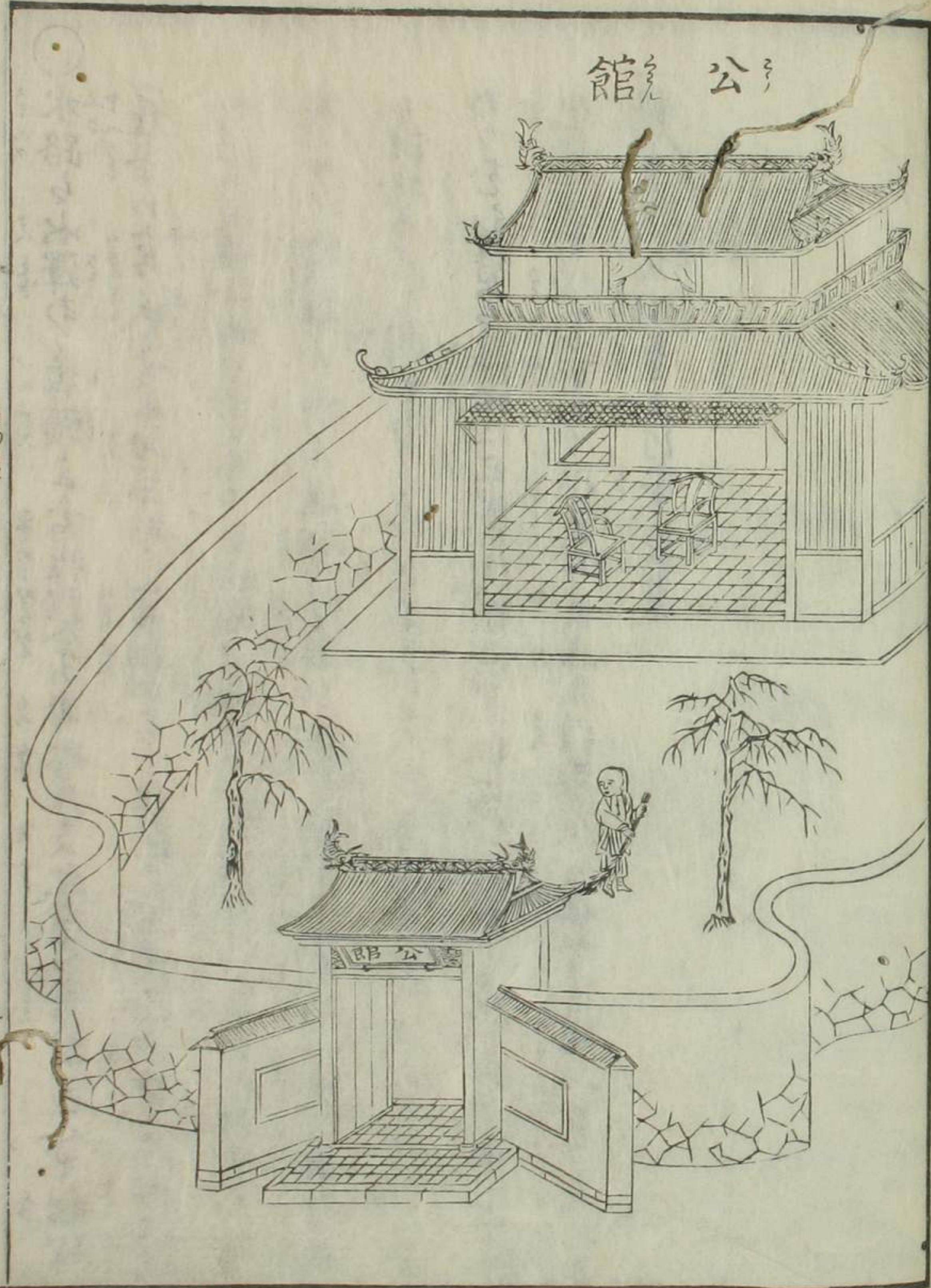
小差スヤウタチを遠方エンドウの文武官ムンブカンと申祝儀セイシキをあひる諸宿車モツシキ多く下京シテキ京師キョウシ等ドシの事を不^可足スル一日九百里餘路程ヨウリあり

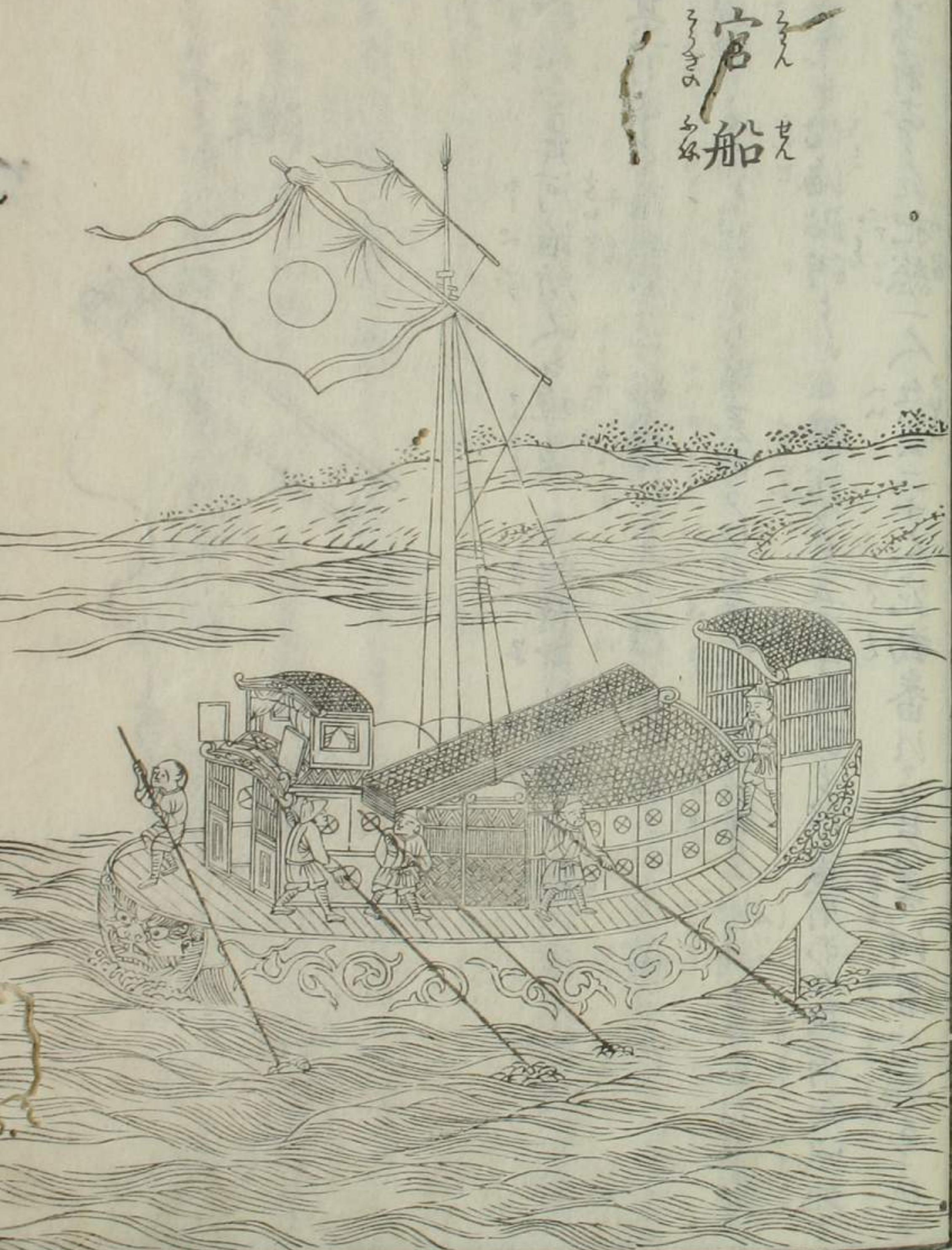
散差サンサイら勤勞ケンロウ多き人ヒト又アリ父母ムツウの喪マツシあく却車カツシキして帰里カムリへ歸カムふ等ドシの人ヒトを恤マツシ人馬ヒトマツを拂マサニかばふ

省シテ縣シテを運上等エンドウの銀子ギンザ上納シヤウナの爲シテら銀鞘ギンサヤみ銀成ギンセイれどこそ小差スヤウをうちそく運站ヨウジより宿次スルシをひく先送センソウふ形ハタケ

○官人住來の宿^{ホシ}則^ハ其地の役所^ヲを建^ス至^ル而^ハ一澤八^カ石^{アリ}ハ十ヶ所の大館^{アリ}ナシ^ニ成^ル公館^トふまく公用^ノ官差此所^ニ宿すか也宿賃^{ナシ}科^ヲ等^ノ仕^ハ拂^ム其^ノ利^ヲ開^キ銷^スミ立^ク候^ハナリトモ其^ノ官^ノ役^ヲ公^ハめ^ム十ヶ^{アリ}ハ二十日後^ノ銀^ヲ公^館の支配人^ハ與^フ事^{アリ}是^ヲ賞^メ銀^ヲ科^ヲ別^ハ候^ム拂^ム

○旅店^ヲ村^ニ落^メ每^ニ有^キ是^ヲ打^ハ火房^トふ打^ハ火房^錢晚^ニ旦^ニ一人前^ハめ^ム八拾文或^ハ百文^{アリ}下^ハ飯^ヲ豆腐類^一種^ヲ魚肉等^ハ其^ノ志^ニあ^リびて何^程も出^ハ此^ノ科^ヲ別^ハ候^ム



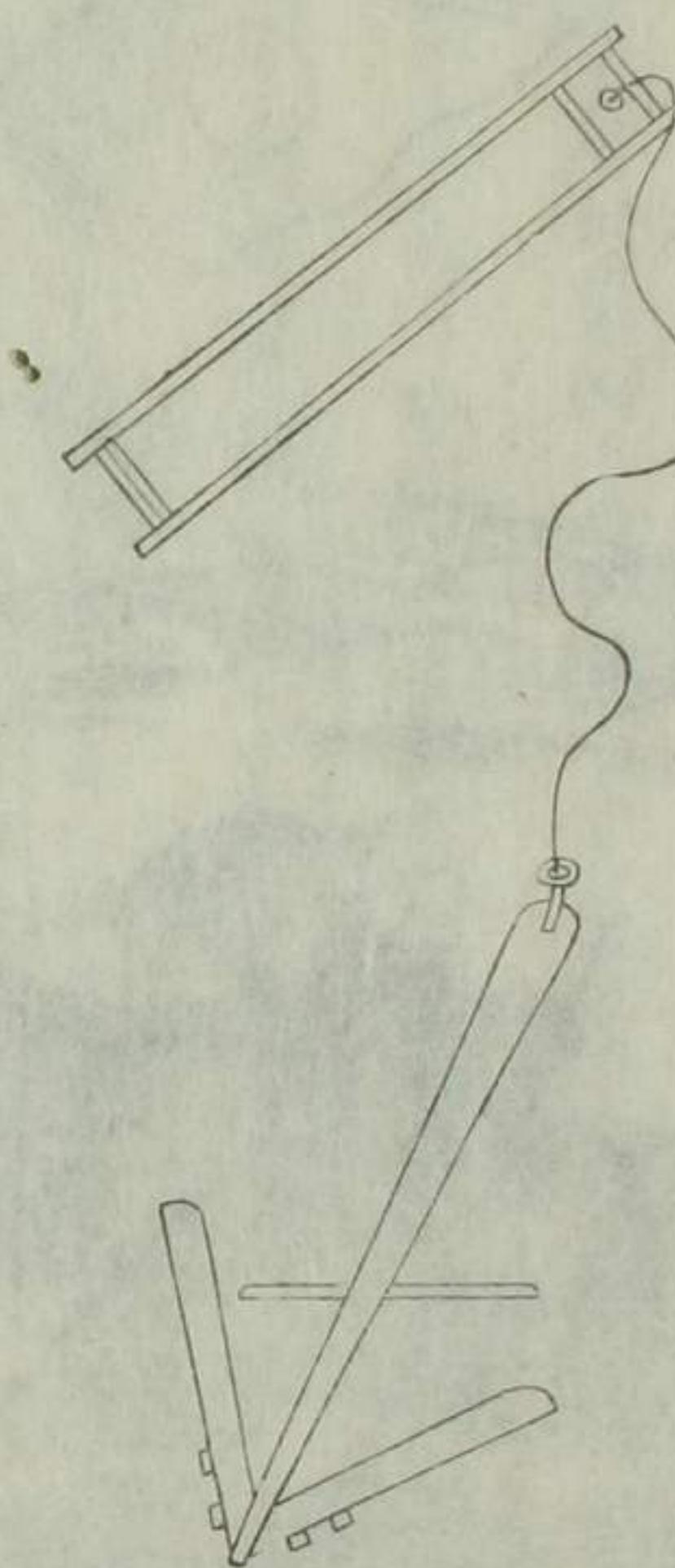


図版

十

○水路より水澤あり埠頭を百姓区分の者船代支配する所ありて船代
雇事より官民ともお此不外官船のすとなく二三百里の所まで大船一艘
九二百回位小舟へとありを則在官船のすとなく皆其本地の入用ゆく造
車ゆく官府より別々造船の貸出ふ事一切か一又民商内地の水行或
ち陸地ゆくも罔^ハあうて荷物あくびみん數等改め石炭運上等成納^ス事
ありを私住員より海路二三里の渡ありば小舟一艘二百又十人位之渡し^ス一場^スあり
郵亭にて休息可あり住處の客^{シテ}或侍ありひる雨雪を避行^ス事あるを
例^スより^ス茶桐等出^ス事もある

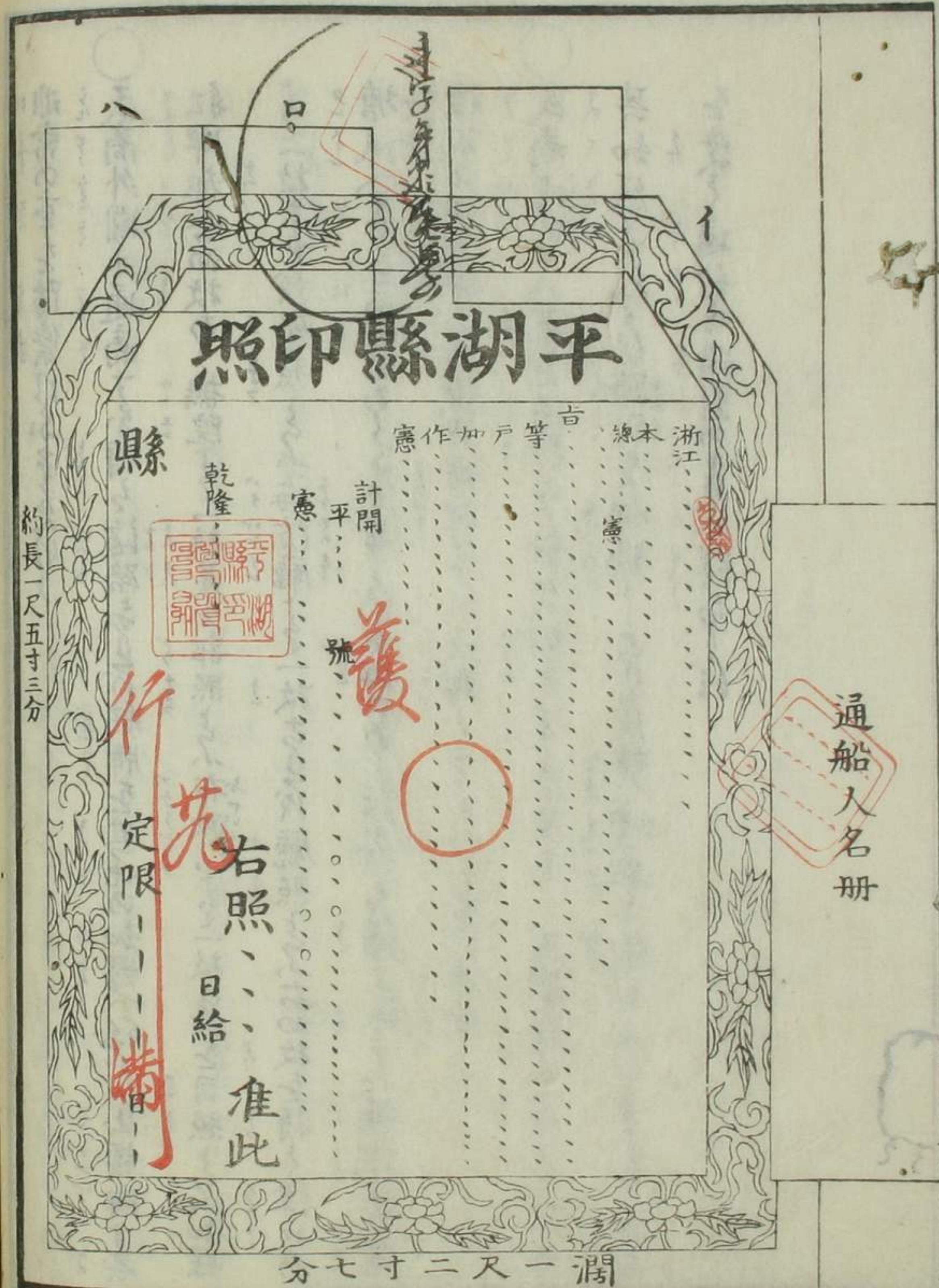
棹



○河船あはる河泊所又より埠頭よし船代出で開壩とて堰の降り河役所あり
甚物めぐら荷物を外船へ積替又より荷舟を車み引ひ壩を越えしむ是と
過埠とふを改方を軍差あひへ系施あひ官物を奸商せまふたを以り
船とて沿海沿河とみ塘汛と五里十里おもに番所あり此所を汛地と
不列島とれ把總一人兵士二十人究勤番はさうりん事河筋盜賊あひよ

非常の事を防備しよかまえめり

○民商外國み通商する時も海路ありば船牌を其代の知縣へ持ひ出領牌す要
船牌都合四枚あり撫院と一枚足を部照とふ布政司と一枚されを司照とふ知縣
と一枚す右懸照とふ海防廳と一枚す右廳照とふ右四枚を持く津口乃
塘汛へ至る荷物のあらざをあらびふ牌のあらためも請ふ此とて塘汛より其
役の印を押すが紙代縣牌もとて祐くよしと正代掛號とふ
○民商内地十八省を通行すあめい切手等の車か一差塞外み出ふとて
其知総本府へ路引を收領へと正代掛乃境界の關門をつゆりあふと
を受く通行モ路引の書式詳あらば



縣

乾隆陸拾年玖月

羈旅

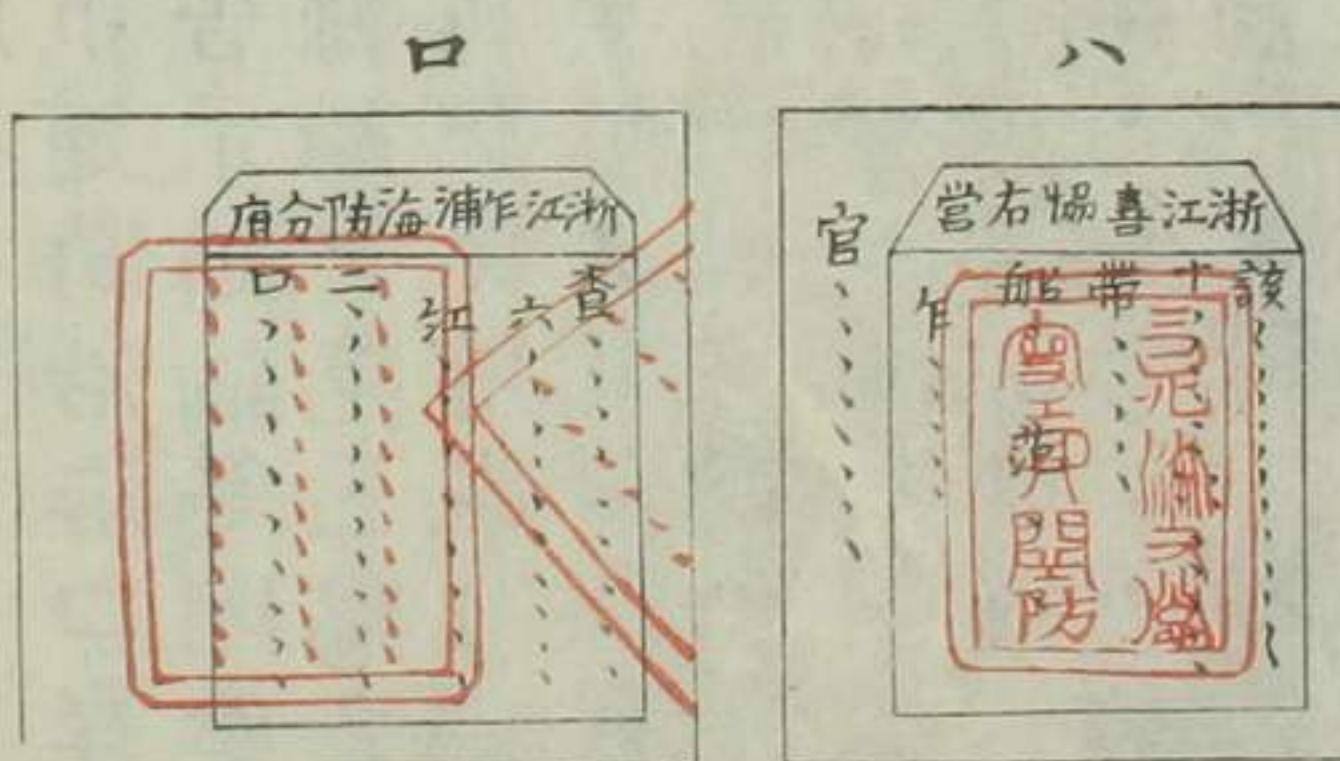
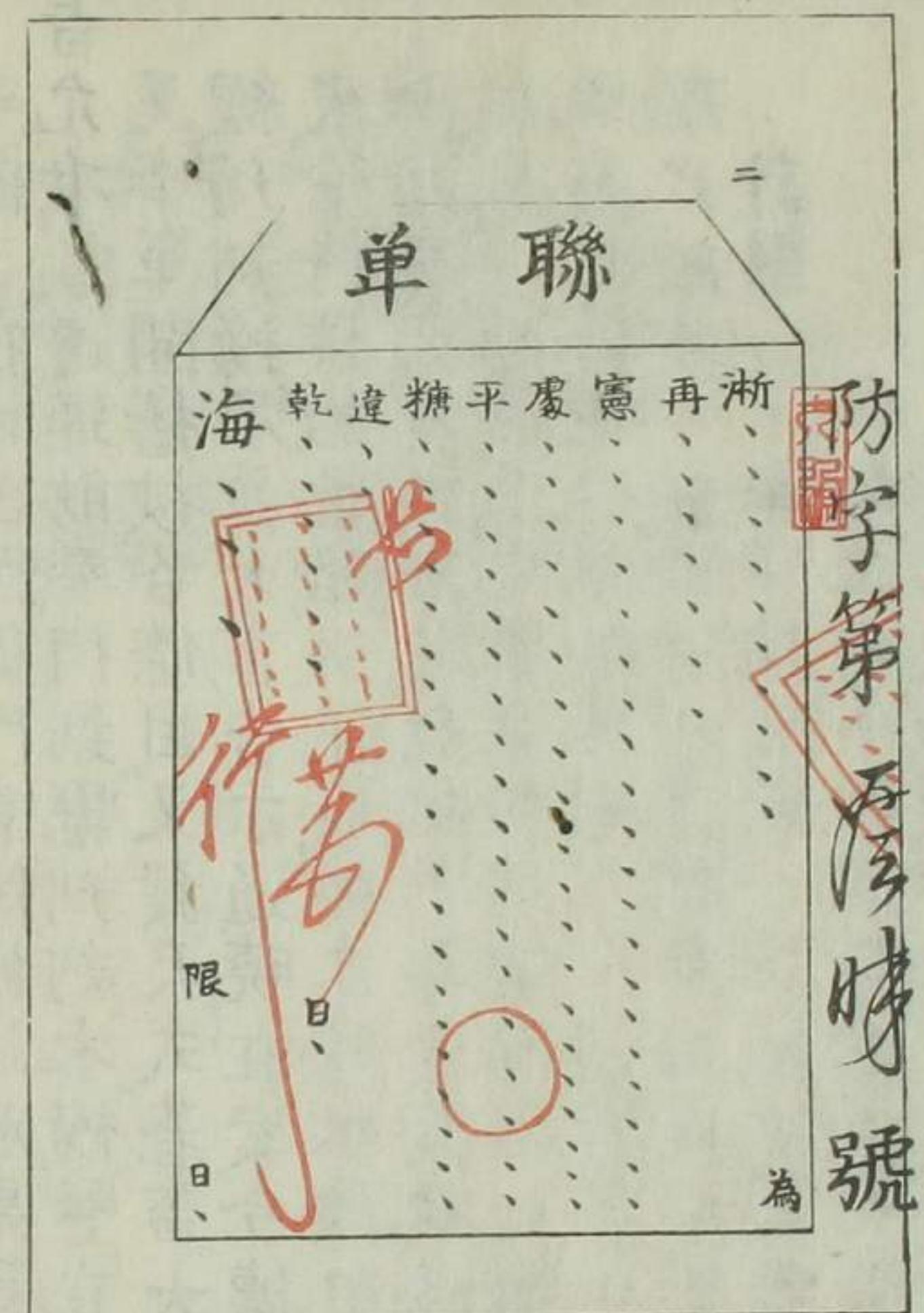
定限對年，對月

十二

日給
日繳換

平湖縣印照。浙江嘉興府平湖縣爲請嚴造船給照之法等事。蒙本府信牌蒙布政司憲牌奉。平部咨覆本部院衙門會陳條議前事等回題覆奉。旨允准欽遵通飭奉行到縣刊刺木榜豎立城市通衢沿海口岸曉示又奉單開稽核各條目。又發尺寸著書大張告示通諭等因奉此業經刊刺榜示並大書告示通曉在案今據本縣船戶范三錫呈報前來除將該船量烙併訊取船戶舵水鵝甲里族鄰佑保家各供結外敢私行頂替及夾帶違禁硝磺樟板釘鐵大舵大桅含檀鹿茸桐油黃麻棕片農器等物爲匪作歹情弊各口汛防暨巡司捕員五將該船戶舵水一並拏送以憑嚴究解憲治罪毋違須至護照者。計開平字第洽柴號船樑頭壹丈捌尺。寸。分配船戶舵工水手共貳拾捌名又奉憲行會同關部額領款式就船頭樑木量確一丈八尺。寸。分係歸輸課船隻。右照給船戶准此。

粘縣牌掛號之圖



口浙江嘉協右營

該船於六十年九月二十一日到口

十月二十五日

將藥材等物出口往東洋

帶食米一百石，船戶范三錫

乍浦汛掛號記

官商錢繼善承辦洋銅

八浙江乍浦海防分府

查驗船戶范三錫於乾隆

六十年九月二十

一日裝載紅銅進口於本年十月二十五日

裝糖藥材等貨物出口帶食米壹百石往東

洋

聯單

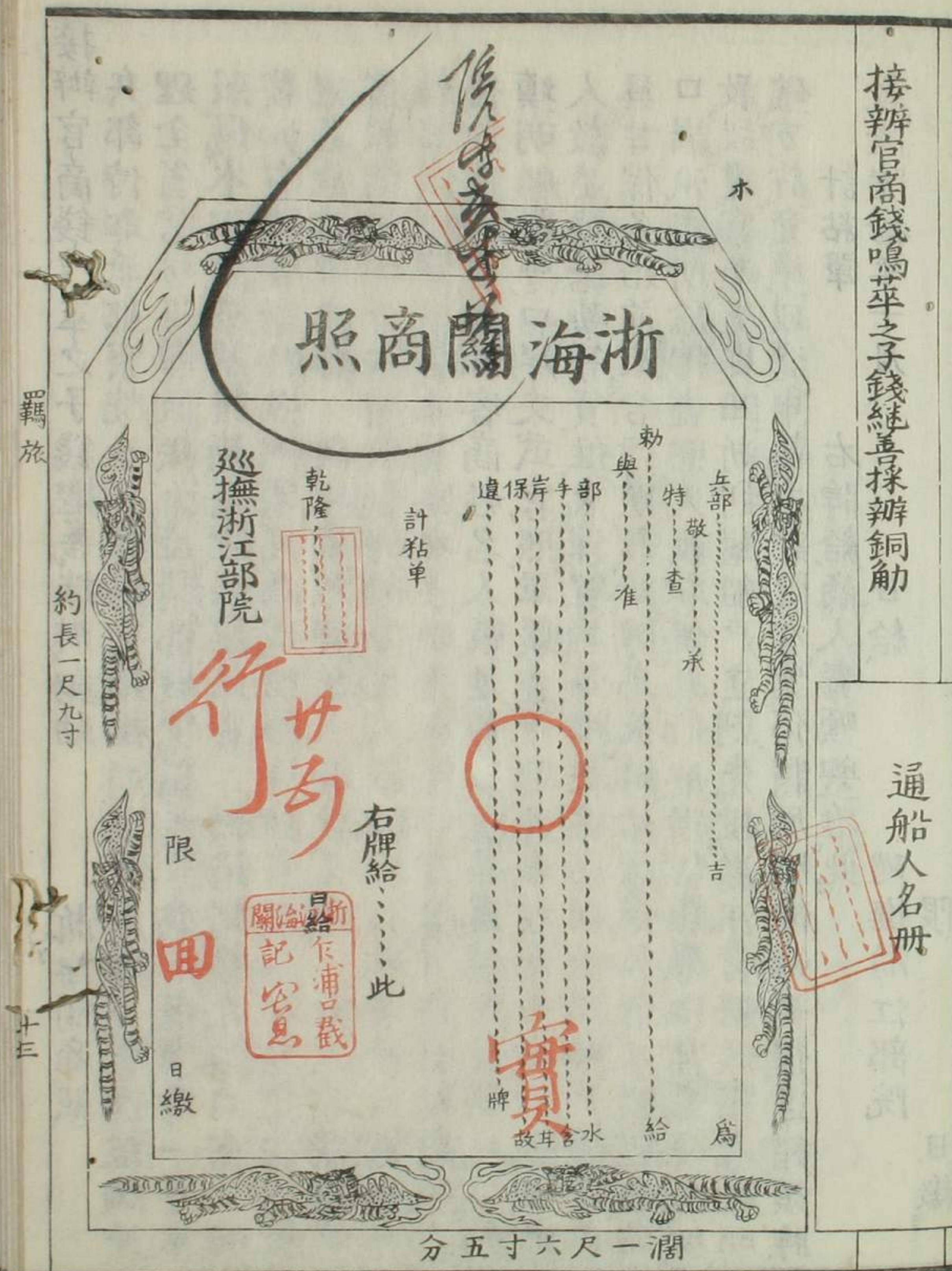
浙江嘉興府海防總捕分府再飭汛口等事案奉
憲行，出海船隻設立聯單，填明船商舵水姓名貨物
經由處所便汛稽查等回遵奉，在案今據牙人謙
順興具報平湖縣船戶范三錫舵水共二十八名
裝商費晴興糖藥材等貨前往東洋處貿易經過
汛口驗明放行毋違須單。三限

乾隆六十年十月廿一日給

海防分府六十年限廿一日繳

接辦官商錢鳴萃之子錢純善採辦銅劙

通船人名冊



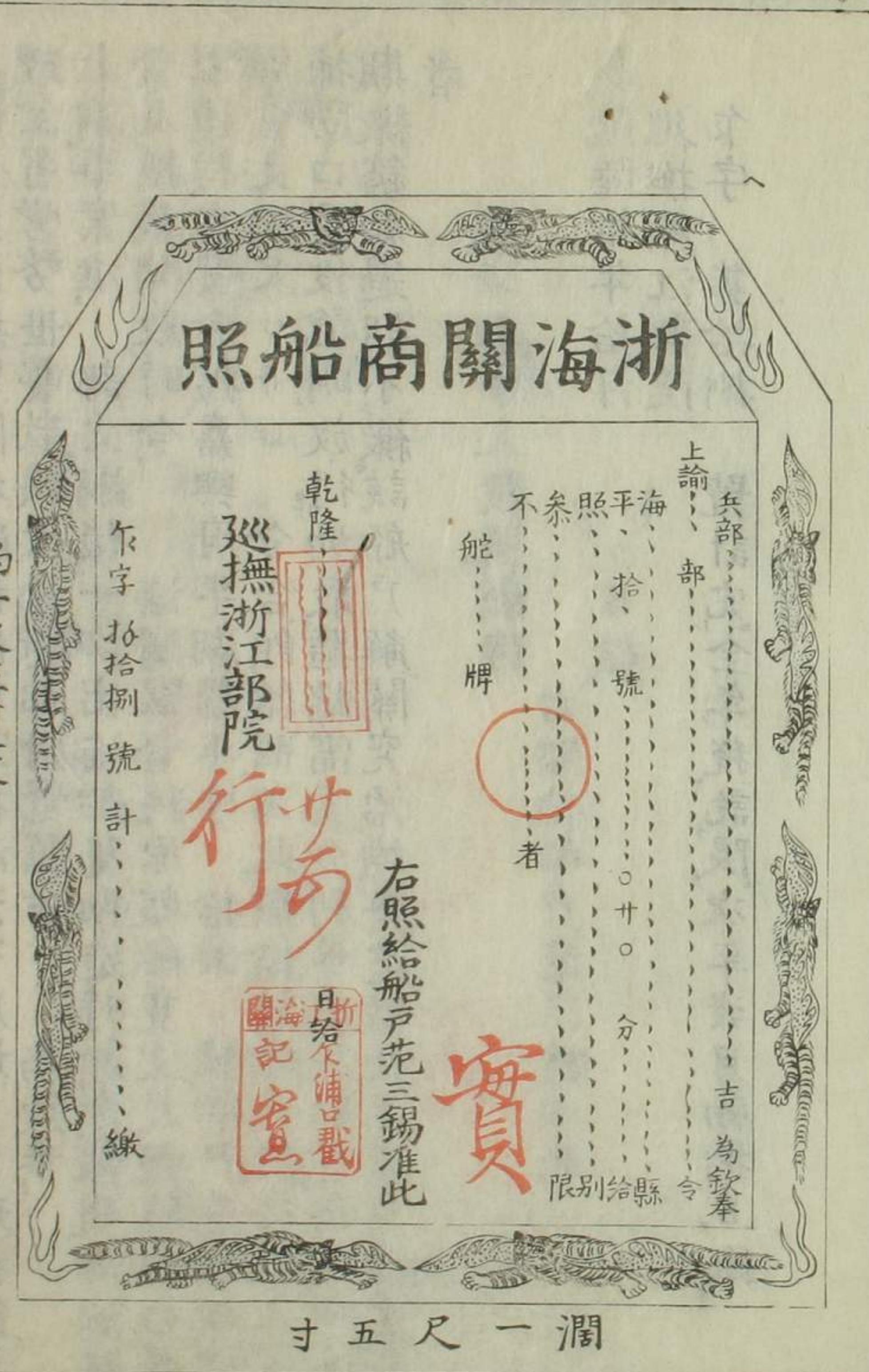
接辦官商錢革之子錢繼善採辦銅劙
 兵部侍郎兼都察院右副都御史巡撫浙江等處地方管理糧餉兼
 理全省營務世襲散秩大臣騎都尉覺羅吉為敬陳專一等事
 照得本部院恭承特簡兼理海關伏查勅諭開載凡海口出入船
 載如有夾帶禁物照例拿究商民情願從浙江省出海貿易登記人數
 姓名取具保結給與印票以便出入欽此又准部文內開船戶
 攬載開放時令海關監督將船隻丈尺親驗明白取具挖水連環互
 結客商必帶有資本貨物水手必查有家口來歷方許在船驗明之
 後卽將船隻丈尺客商姓名人數並載貨往某處情由及開行日期
 填明船單令口岸文武官照單嚴查等因遵奉在案令據該商冊報
 人數並載糖藥等貨往東洋貿易等情並據商摺係行船戶商伴各
 具甘保各結前來合行照數給牌爲此牌給該商收執凡經過各海
 口耑汎處所驗牌查照人數卽便放行毋得留難羈阻需索分文如
 敢故違官參吏處回浙到關船戶立刻先投耑汎營縣候點人數明
 確方許登岸以憑申報本部院存案仍將原牌繳銷毋得違錯須牌
 計粘單右牌給商人費順興准此

乾隆陸拾年十月

日給

巡撫浙江部院

日繳



約一尺五寸七分

一寸五尺一闊

浙海關商船印
兵部侍郎兼都察院右副都御史巡撫浙江等處地方管理糧餉兼
理全省營務世襲散秩大臣騎都尉覺羅吉爲欽奉
上諭事案准部文嗣後一切出海船隻初造時卽令報明海關監
督及攬載開放時令海關監督將原報船隻丈尺親驗明白等
因遵行在案今據嘉興府平湖縣平字拾柒號船戶范三錫標
頭壹丈捌尺。廿。分合卽給照爲此照給該船戶執持出入貿
捕防口員役驗明放行加敢藉端需索分別參處該船務將此牌按
期繳銷如過期不繳該船戶解開究治均毋違錯致干查究須至照
者

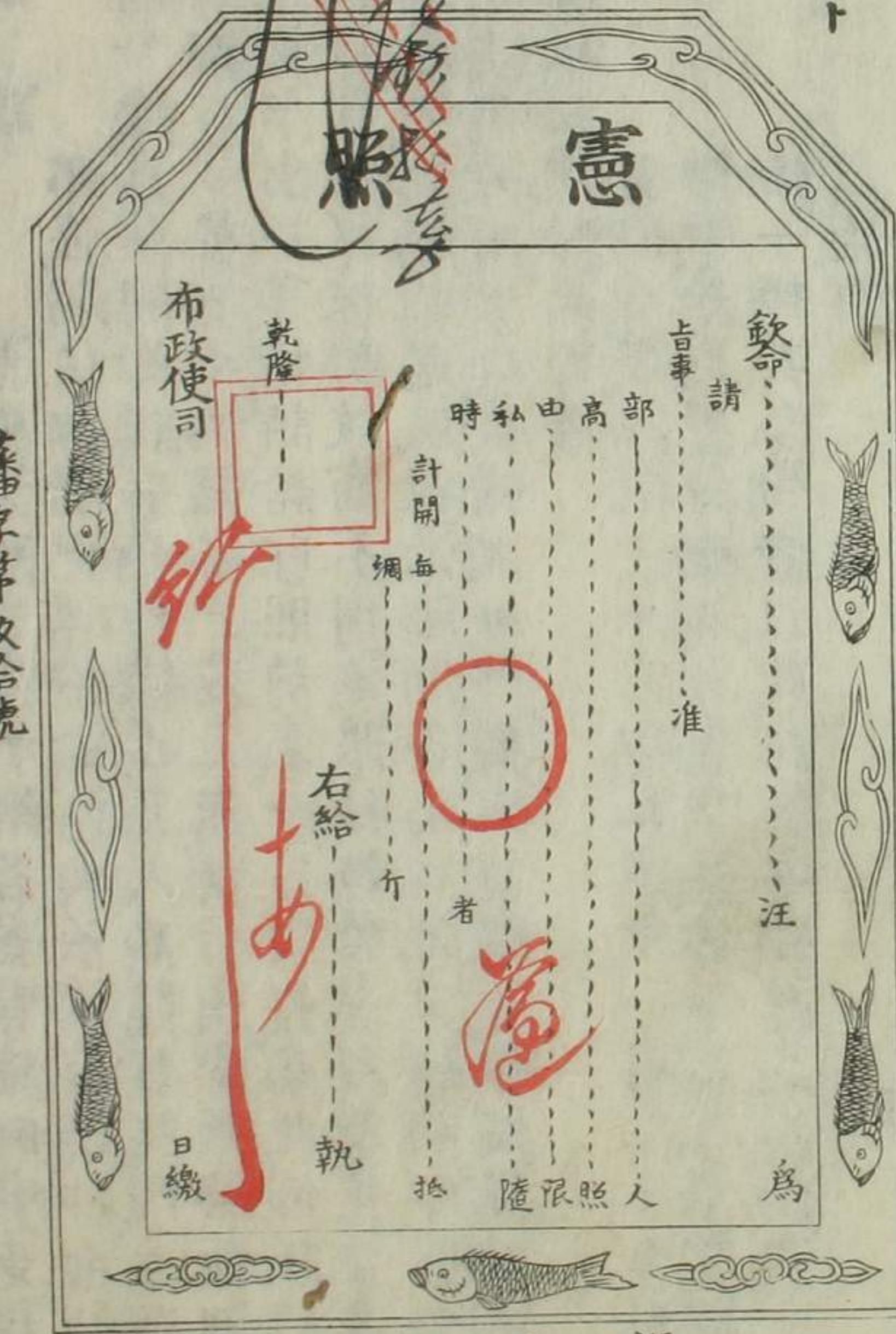
乾隆辛未

舵工水手人數照縣牌

右照給船戶范三錫准此

乾隆陸拾年拾月
巡撫浙江部院
乍字 第拾捌

號計完全年稅訖限次年柒月初捌日繳



憲照

欵命浙江等處兼宣布政使司布政使隨帶軍功加三級紀錄十五次汪爲請旨事案照官商承辦各省官銅例應免稅放行奉准部咨嗣後銅船出洋按船給與承辦官商印照以杜影射等因今據嘉防同知詳官商錢繼善家人高陞具呈陞主運例出洋採辦銅斤今雇有平湖縣船戶范三錫倩行商費順興執例大發各依照由乍出口等情請給印照前來合行須發爲此仰該行商即使收執領賞往洋採辦該商不得逾限私越禁洋以及夾帶違禁貨物有干嚴例倘銅船遇風收泊閩浙各海口地方驗明印照督令行商人等隨時撥回乍口各關汎毋得稽阻留難有悞報鑄回日仍將原照繳銷毋違須至照者

計開

每船准帶綢緞三十三捲每捲重一百二十斤加有願帶絲斤者許配二十三蚕粗絲每一百二十斤抵綢緞一捲其多帶者以此抵算每船絲斤不得過一千二百斤

右給官商錢繼善商夥費順興收執

布政使司

乾隆陸拾年拾月

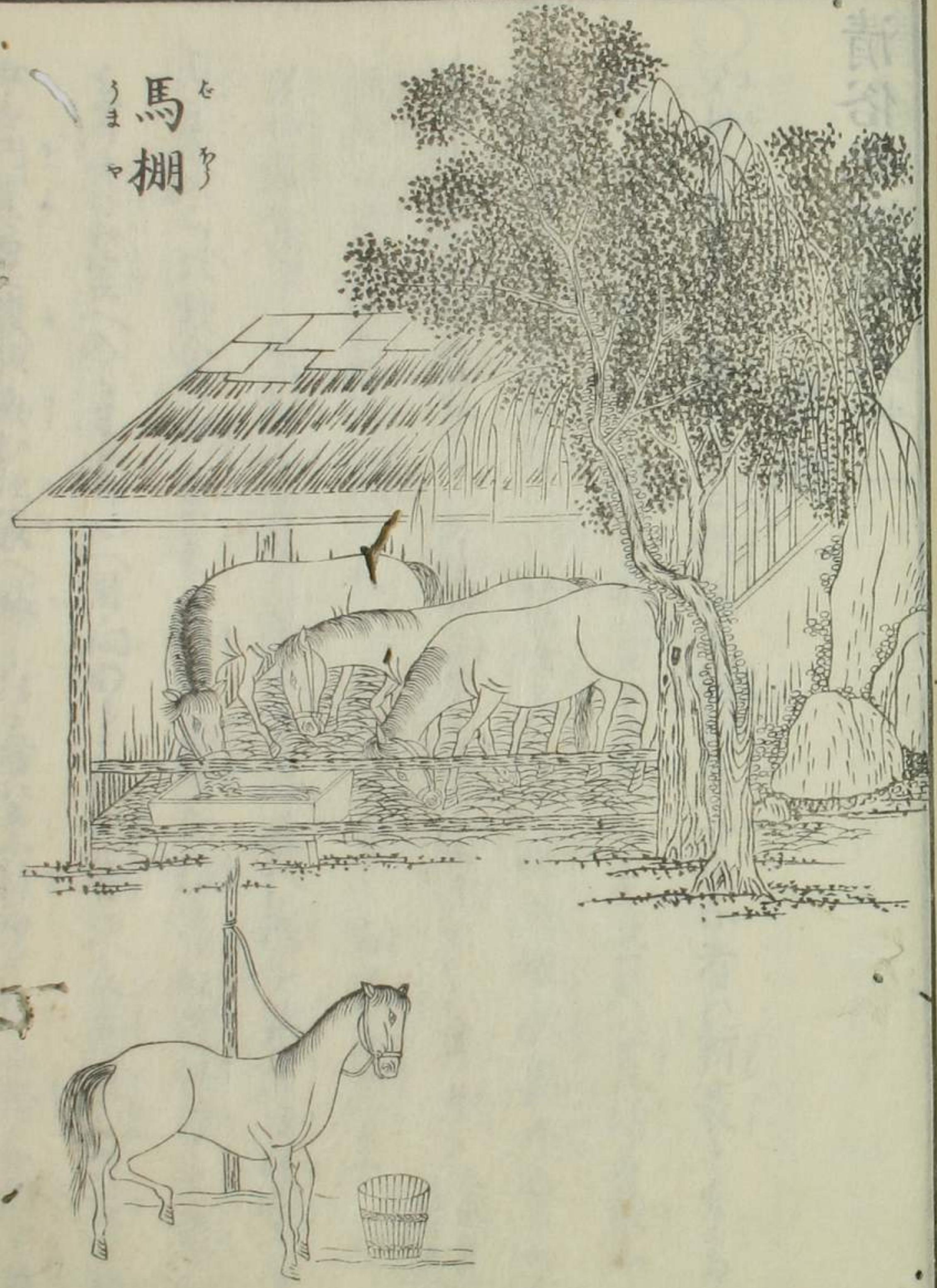
日繳

○内地と塞外の疆界而く外關不あり其關城守は役人から武官の總兵官より勤番は民商塞外を出る車あれば關所ゆゑ某のびんり或ひ某の商客より車を聞知して通行をゆかば又其車絲みあつて願の品水より其知縣より本封候に關所掛あひたまほ車あり此文書代關防と云文書の式はまほかあらば

○官民ともみ旅行の時四五日未加音あひる親屬とも席次設く送別の酒宴を催すと必膳儀ある官人より互に銀を用ひ民商とも膳せむも皆銀あり民間もてあるみ緞匹を用ひ銀袋薄儀とて又酒肴等携郊外又て如候めくも二三里をかゝる見れたこのたれ行李車あり勿論昔時の館柳など之が故實を用ゆかまれば馬の喂養を青草より藁の古根をきこえりすりに切方のあひゆふとくめり又黒豆成程豆清水代く煮豆汁を乾し迄みうれし金九豆四升経年

草十五斤位を一昼夜の喰度を晝の内喰度減後入夜喰度興及草小
麦の穫代サ一あ兮用の暑中より此に小麦サ一加興水を飲む事期ハ少
く貯マサ一塔暮シカビ程トク飲ムも又夏ニ二三日モ一昼夜治セテ毛
毛接四一暫時引サル水氣が氣を上サく涼棚シ引入涼棚後半日陰
の利シく風の吹透サリに志多シ一月み暖ア日代ニ一昼夜
浴セム又前モさく引廻シ後暖棚シ入暖棚シ風の入シカセテ
園内向日修補アリ又隣居考ムサカ馬ハ一時外食を多く用ヤ幸也
チ草モ多シ成サ一アノ水とまシ一飲先其後度シ喰度興ス形

馬棚



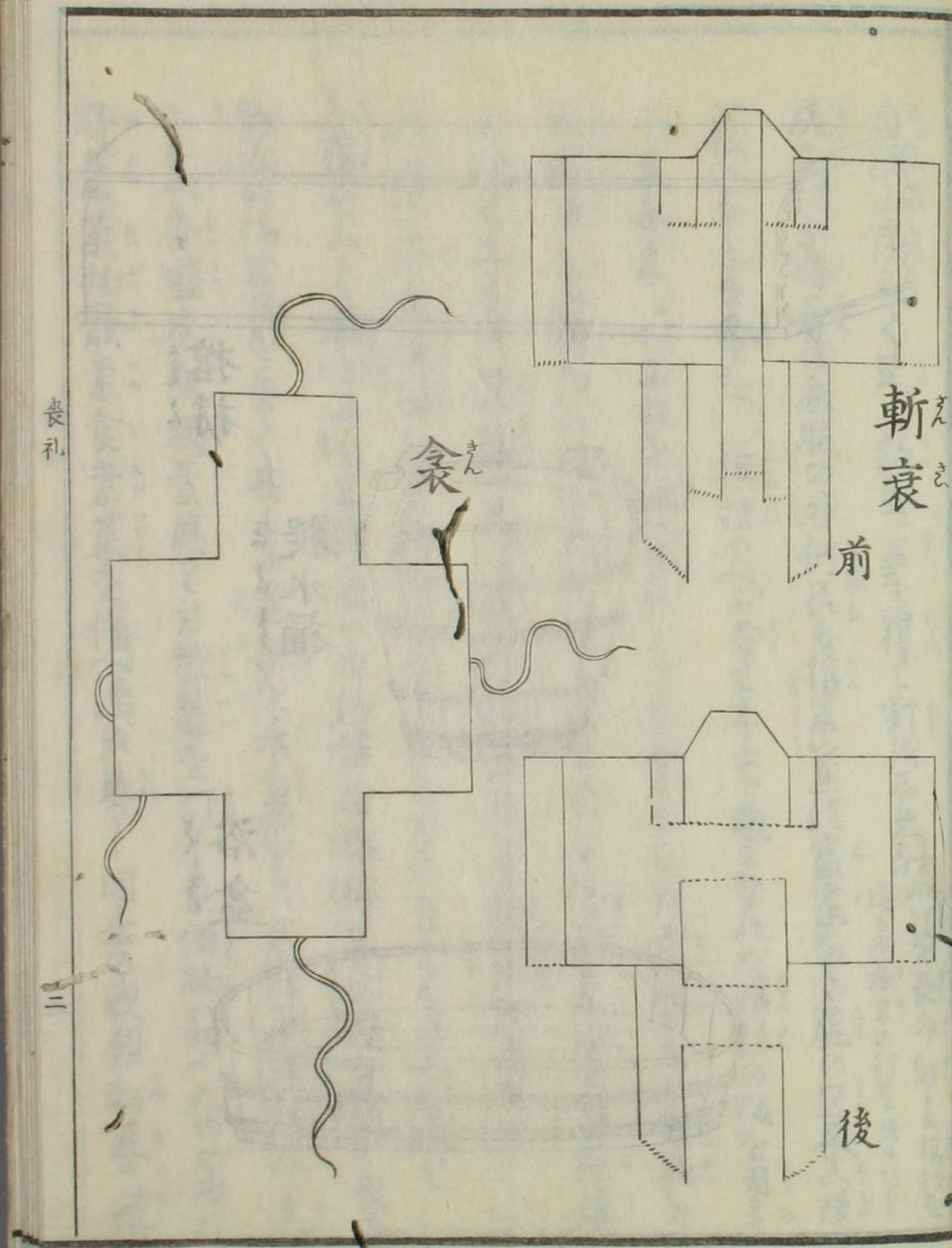
清俗紀聞卷之十

清俗紀聞卷之十一

喪禮

○父母死せば子孫の男女號泣せ堪じ先子ある者の斬衰と云ふ至て粗尼麻布を麻く縫ち裁切まつて其外の荒場より綿ふく是成るに其外の子女は行位の次みよもて稍麻布稍熟布あらふ布みて齊襄總麻かとく喪服成るす家内隨使までも帶孝する者を喪服を著す隨使奴婢とも喪服成るす者をむ何事も黒い布ほく縫之也喪中男女席を同くせば父母の喪中の子孫男子の外廳へ薦を鋪置夜便宿して内房へ入らば飲食の粥素菜を食し盛盤を設け奴婢は侍して妻女ありたる室へ入るす妻女用向ある所内房に立寄用向が違す婦女も内室にて喪儀勤む他家嫁したる者の素振ゆく妻女夫婦も喪

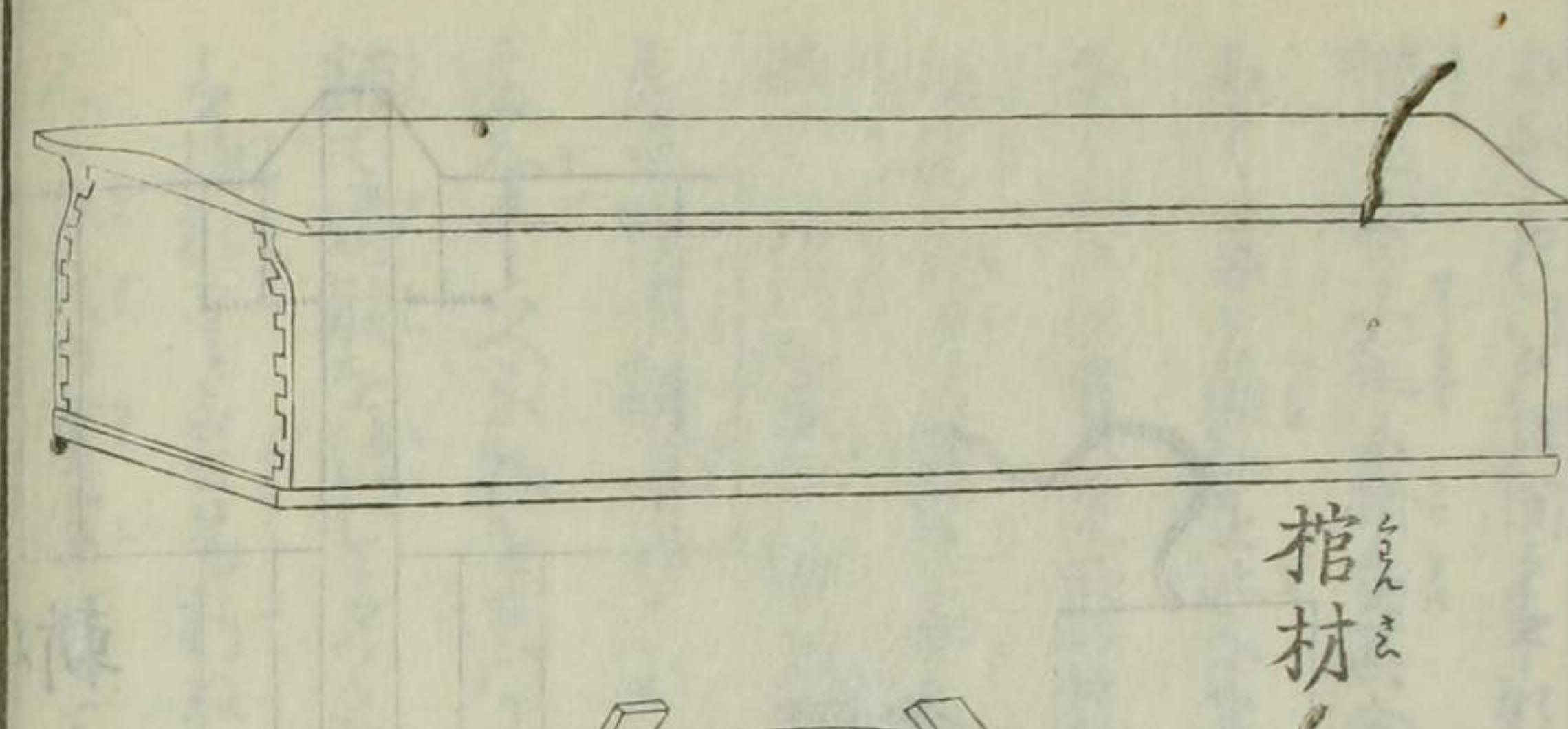
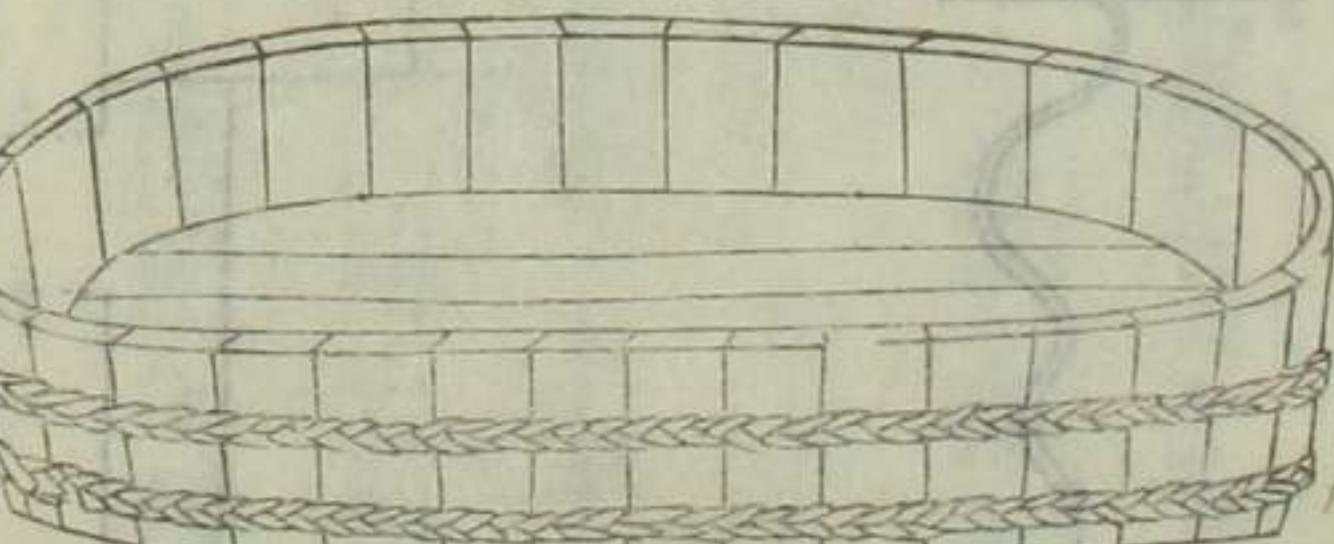
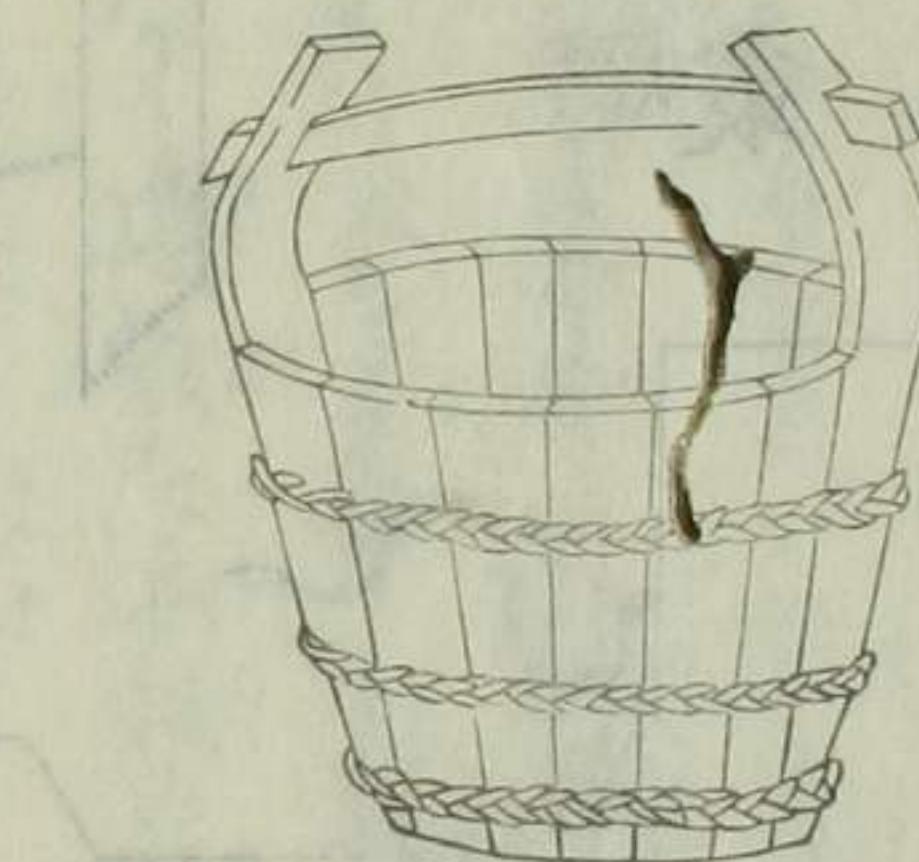
あふとん門戸城聞る事即ち父母の喪みへ自己粗麻布を以て長三尺假すて一
幅木門の上框に掛る其餘の喪みも掛かみ及ばず店商人等喪事取扱
多く一あり商ひを止ふ半面とも喪みよりて商賣城止店を開き等は未
あ一小戸の者の定式の日殺喪を勤ふ半面度素振ふく高賣催工等ふ生
身屍の奴僕の者先新した布をりて湯水浸し抹浴也抹浴も總身あらば
拭く内代を剃て辯祓梳つてお坐て蒲團の上み絆せ至新之死後城
着せ帽子鞞子止も影しを着せ一免枕をさせ至○入殯の道具捺
あ衾と云ふ物をりて遺骸を衣被の傍に又棺ふ蒲團をゆて二
鋪て遺骸を納む多く夜分み親類打よりて俱くに骸を取ぬむ棺板
も楠木など容易朽ぬ板料をひく抜板の令を因みに漆成りて塗を垂
人自身代の貧富ふよまと朱を以て詰からしも砂糖ふくぼれ或ら



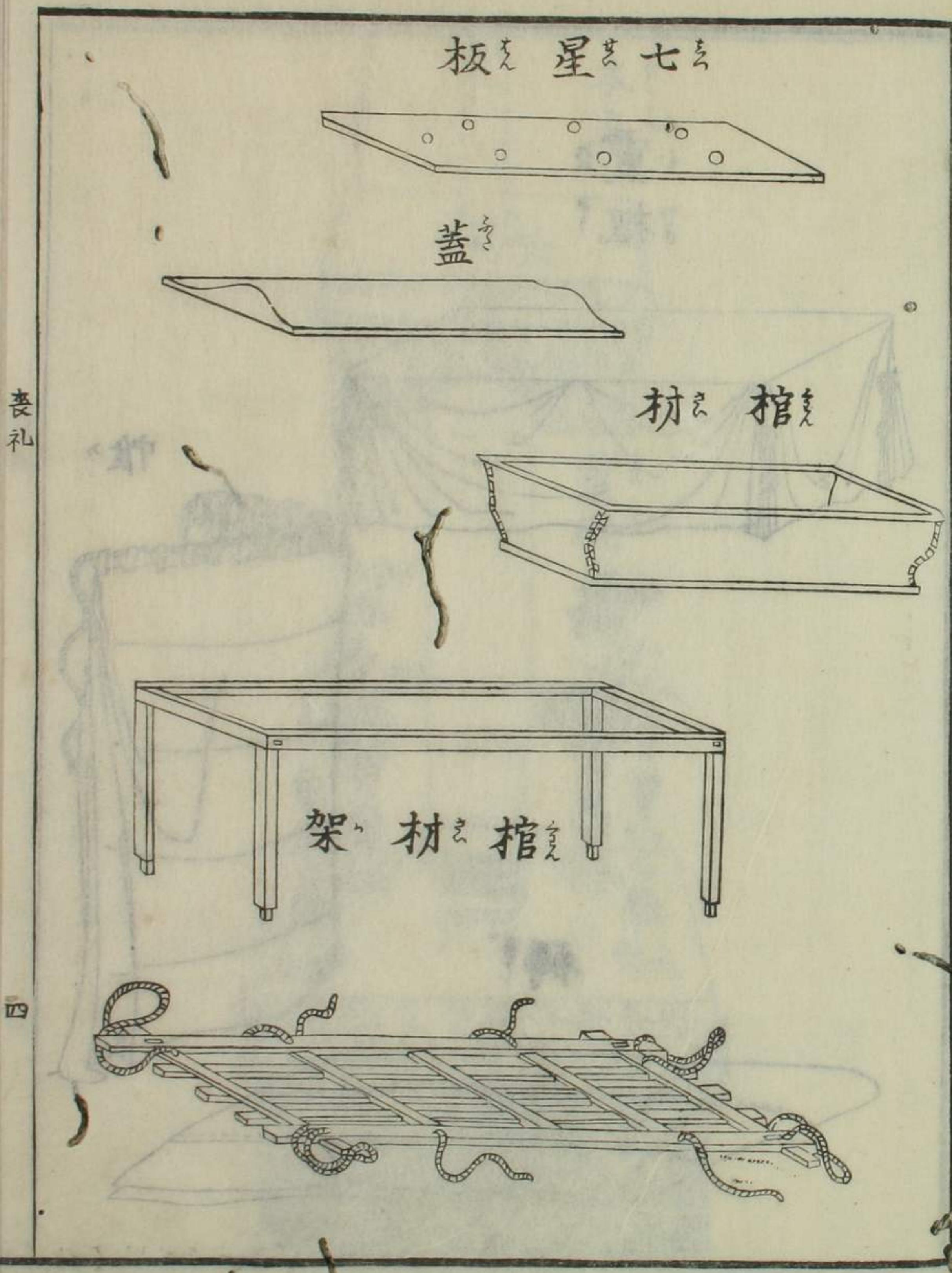
棺材

提水桶

浴盆



白灰山炭をく壁く詰金蓋を覆て釘成先此釘を長命釘と云棺材を送るか蘿木の行を用るなり
屍を納ふ時着の衣服の外何只も棺みは且ば富家あと屍の尸生際
一絆入るを乞之○棺材の人よりて年六十歳よりれば棺材の板を用ひ
し置毎年よりお松を調へ替れどする年を先成壽板より棺材を
大平車より棺材の板を大平板より生前より備へ出来ぬとの死後
未成く子貢に頸調へ是ら蘿木の釘又は守鉄釘故也
○抹浴の浴盆提桶を新お造りもありて有合を用ひもぢと
○入棺坐みく慮上み白は綿或ひ白砂糖白縮綿等の幔を張中央より
肺次の枯放物をゑく其上玉靈柩を居玉あよの高紀年代玉木主
を以て番爐花瓶燭臺傍て付燈籠を灯へ並備物は四十九日の内へ
野菜菓物類素食素菜を備へ酒食奠一回客の親頸朝暮禮



喪礼

四

○拜一四十九日後過れば輦を供人ホー輦ハ魚肉類を云

○毎七僧假成請ト請經以經畢テ廳上へ請ト齊を出モ五七日後道士成請ト法會を執行ハ齊成出ニ此七日の法會れ旨親友を請ト僧道一同み齊成出モ死外來人届僧信を請ト或も出葬は前寺へ送り至モ並びに僧徒送喪母あるが半引レ七日毎み僧道を請ト請經成出ハ事古禮み仰テ中興の風俗也く當時一統坐事あり○友人子弟吊そく來モ靈柩を拜モか半引あり

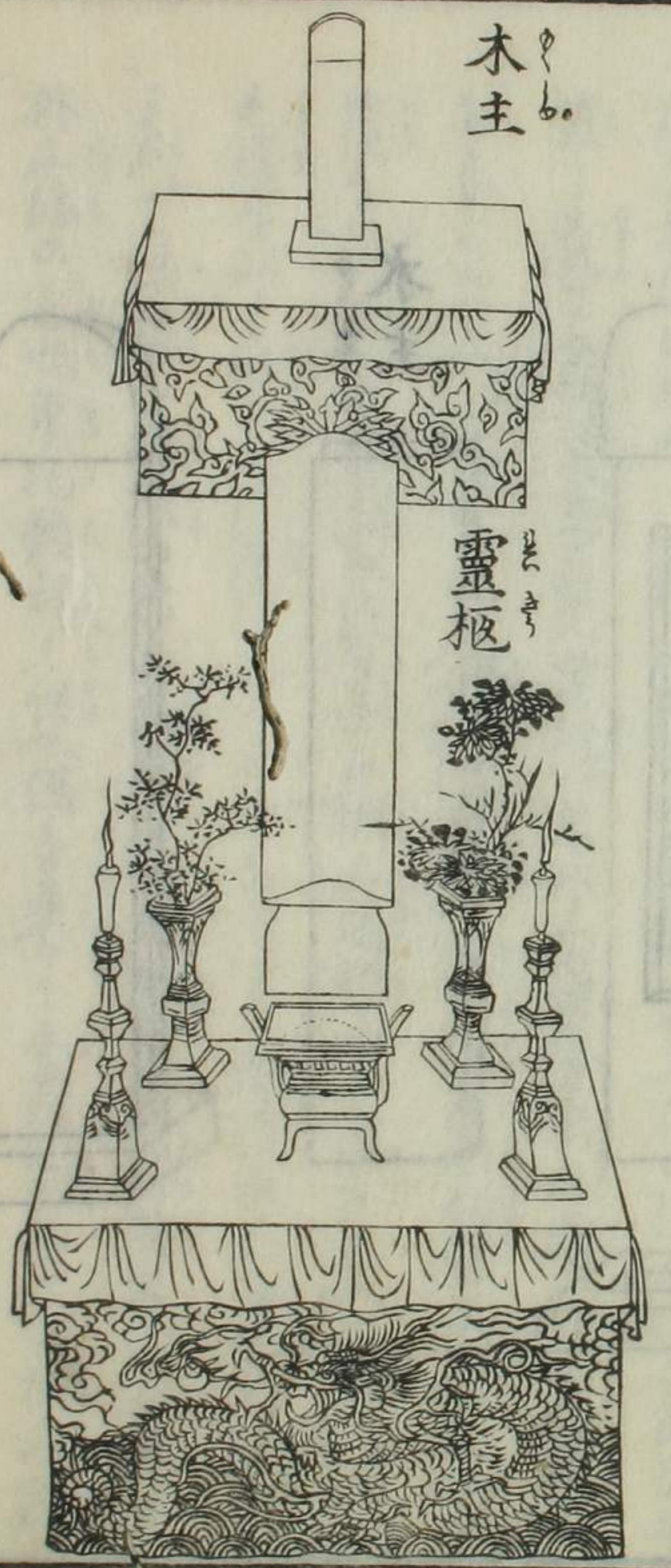
此時子孫ある者靈柩の前たゞの方ニ跪き吊客も答拜モ拜畢モア吊客子孫にしづひ不淑小達すと拜して哭モ主人答拜して哭泣す吊客も帽子の上に赤無成陰化事多衣服ハ平幅あり

喪禮

五

木主

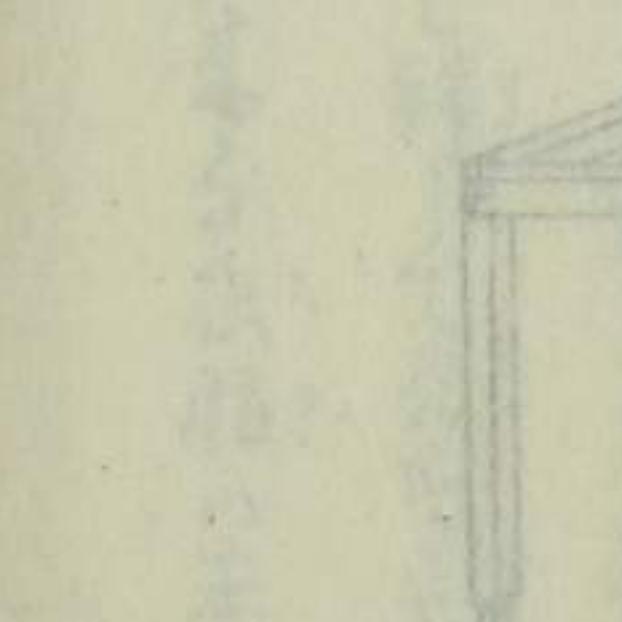
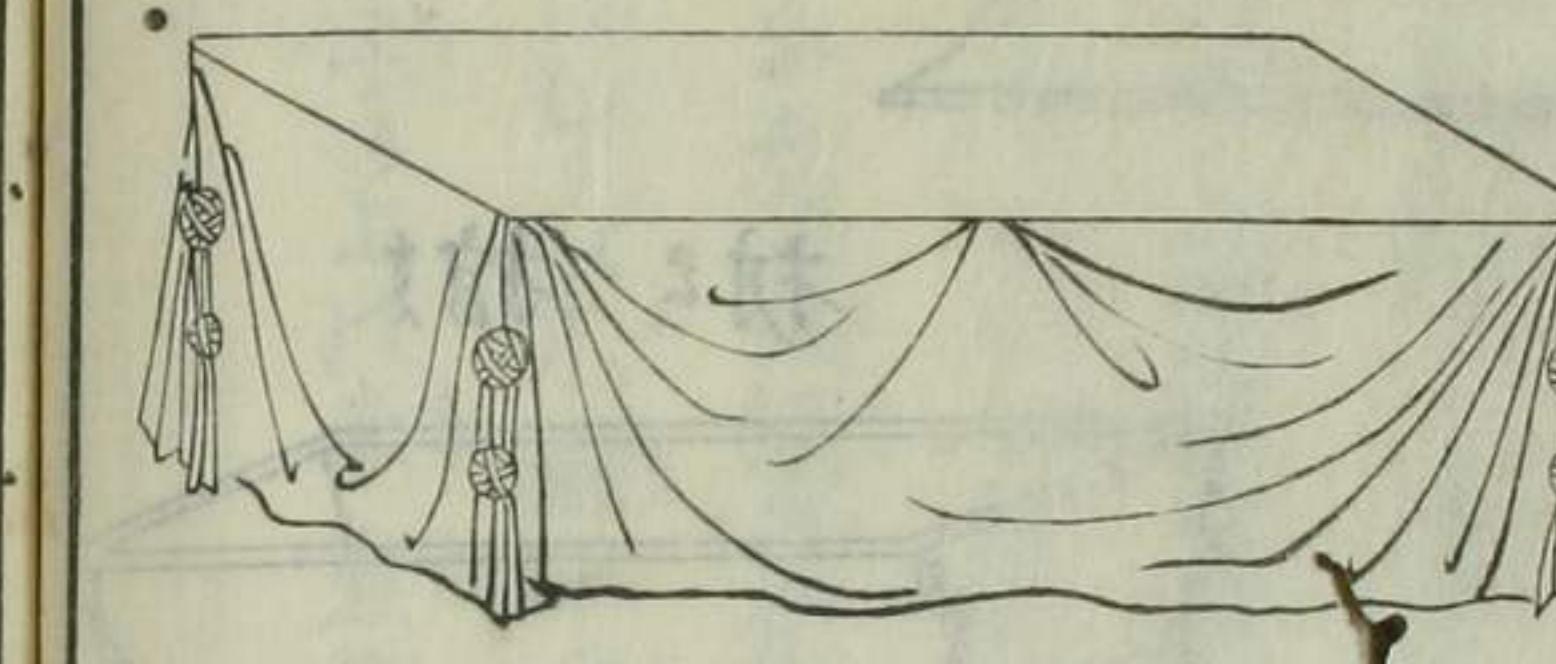
靈柩



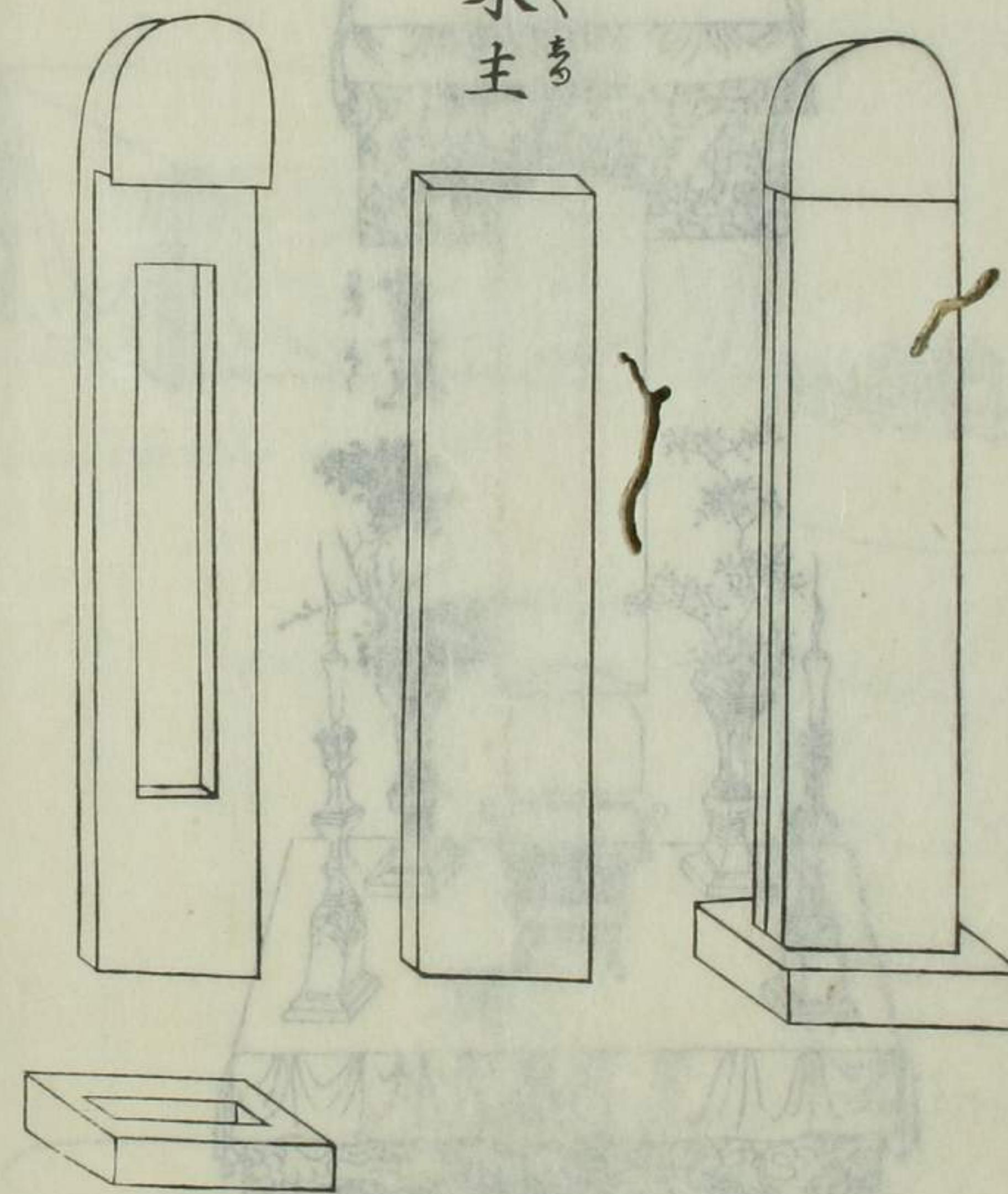
靈柩

褥

帷



木主



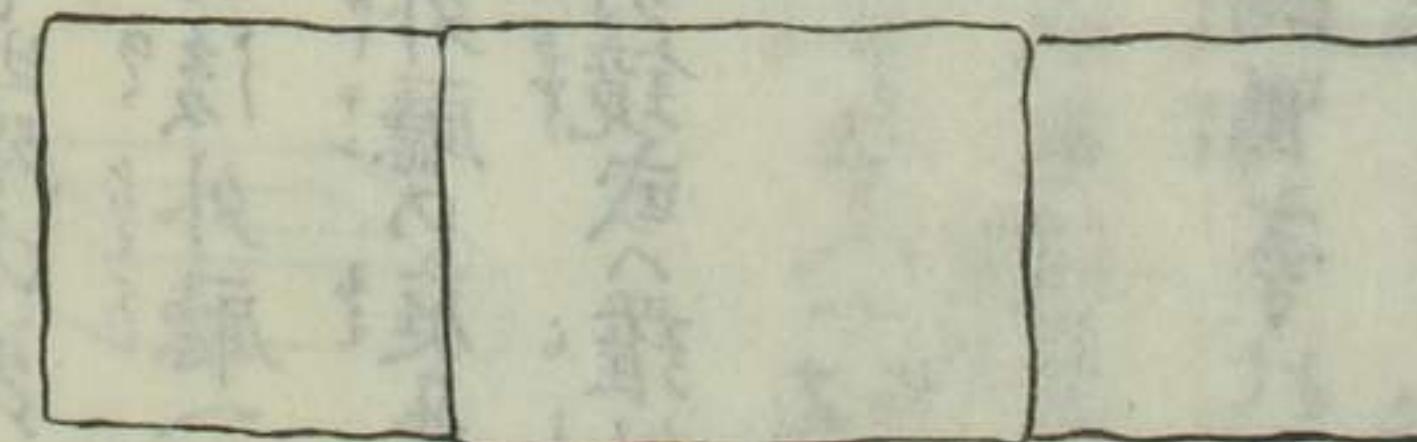
○出葬の家の貲富よりとて忌日又一二日三五日百日或い一年二年或
は三年で出殯するまことにかす簪三年迄出殯するとも出殯の日へ子孫素
服を着て民間多く所へ殯する半解りを入棺の後外廳へ柩を安
置し出葬と無別至る父母の柩一年以上も留置する外廳の庭又假埋し
ある事もあり○大戸の人々家に五六人出葬の日先柩或明鏡或ハ羅紗おほそ
覆ふを施す事もあると家の有無を稱ふ道理やく小戸の人々家に五六人
毛氈を以て柩の上に覆ひ或は本綿を以て覆ひ水色淺黃の継と
毛氈を以て結縁を掛柩の前より高卓或む野牛猪鷄鴨等其全體其
外山海の旨味菓物類種供酒を奠し香料焚子強の柩又附
添房ふ送殯の人々靈柩の前より身を拂ひ畢れば奴僕側より侍を長サ
く三寸程の白木綿をみて一人み一切て取る吊客拂畢足らず立

此向本綿をなく持帰ふ是成利市布とふ喪事吉利あり奉故不

事利市は文字をなく名付一車とで 鶴野牛猪

生を二牲と云

出葬日柩前排式



○此出喪の時吊客ありて拜に喪主の位ふ就て各拜を依る柩の前方
の方み頭を地みほもて拜せ先を替顙とふ ○吊客傍ノ物一二
呉持手と傍ふ手あらぐの心得ふよもて葷物あらひの素菜をりち
奉ふもりと等うるぞ ○葷ハ野牛猪鶏魚肉をいへ 素菜ハ葉物野菜餅本をも
江自の清めく懸を造り竹の先みかひ付あ方にままで次ふ 燈籠
香亭 鼓樂 絲亭 靈柩也靈柩ら明鏡羅衫等あらば
四方へ水色清黃花色等の綺みて結絵を掛け兩方よりれ柩ふ
高揚のすうあらうものみて撫ひ子孫ら柩の方布ふ添ふ向本綿
六七尺を以て額ふあてが人のくぼの方みく結び兩方よりれ柩ふ
通せざら哭ほひ姪等は親類の白向本綿みく頭巾のねある
形をつらさずて一人も銘旌を持其餘ハ柩みつたひて柩と相ま

生まふ綱を身にまもて其身あとの引立候めく持行あら是を
拂り乍香亭一又香亭駕籠の中み造まで水色清黄花色等の箱を以て
種々に体と結縁をかき肉み靈牌とて木主を安置前に前す香爐
を金番成模品後よりみづけ絲亭をわがへからみ造るを至り
柩を入れみあらす所の物あはれもあまを大送あらぬ別ふして絲亭を
以て行列入る此内又銘旌をあてて行こともあも餧豆等ハ香亭
みがみみ幸れ一鼓樂も笛大鼓簫雲羅噴呐等をうふ
○生喪の日朝も陰陽師も正戒考の時日極りさか時親類朋友等へ
あはせ遣り内ども日朝別柔日の差別ふ一割限も時も隨い用ゆ
○女を送喪の時緩轎女駕籠を手を外を白木綿絣ぬく覆ひ墓
前まで送りゆく○柩を墓所みあはてありて子孫礼辨して土中み
葬ア大あはれ伝代蓋代を覆ひよみ石碑を建家柩をねむしむ元
を従古の廣と云俗詔小金井と云又地宮と云
○地宮立立日と云人をはづへ塙せ四方を伝せまゐあも底ア
毛竹成敷柩を納め上より黄土土石灰と成ぬくよしくかき先石碑成
建系富家の者へか縫て墓地を見え穴を塙て行かくあも底小蛹
燭を入れ温燥をあらぬるが温氣あひ外の所も塙へあとひあご
並温氣を忌む石灰と黄土土又鳥樟ヤクシキと木樹の葉代つたま
用や亞馬港石灰と云あら土み白灰成ませ掲合せく水かこの所
あどに用ふ幸あらわれ類と云此鳥樟ヤクシキと杭州の内童井縣

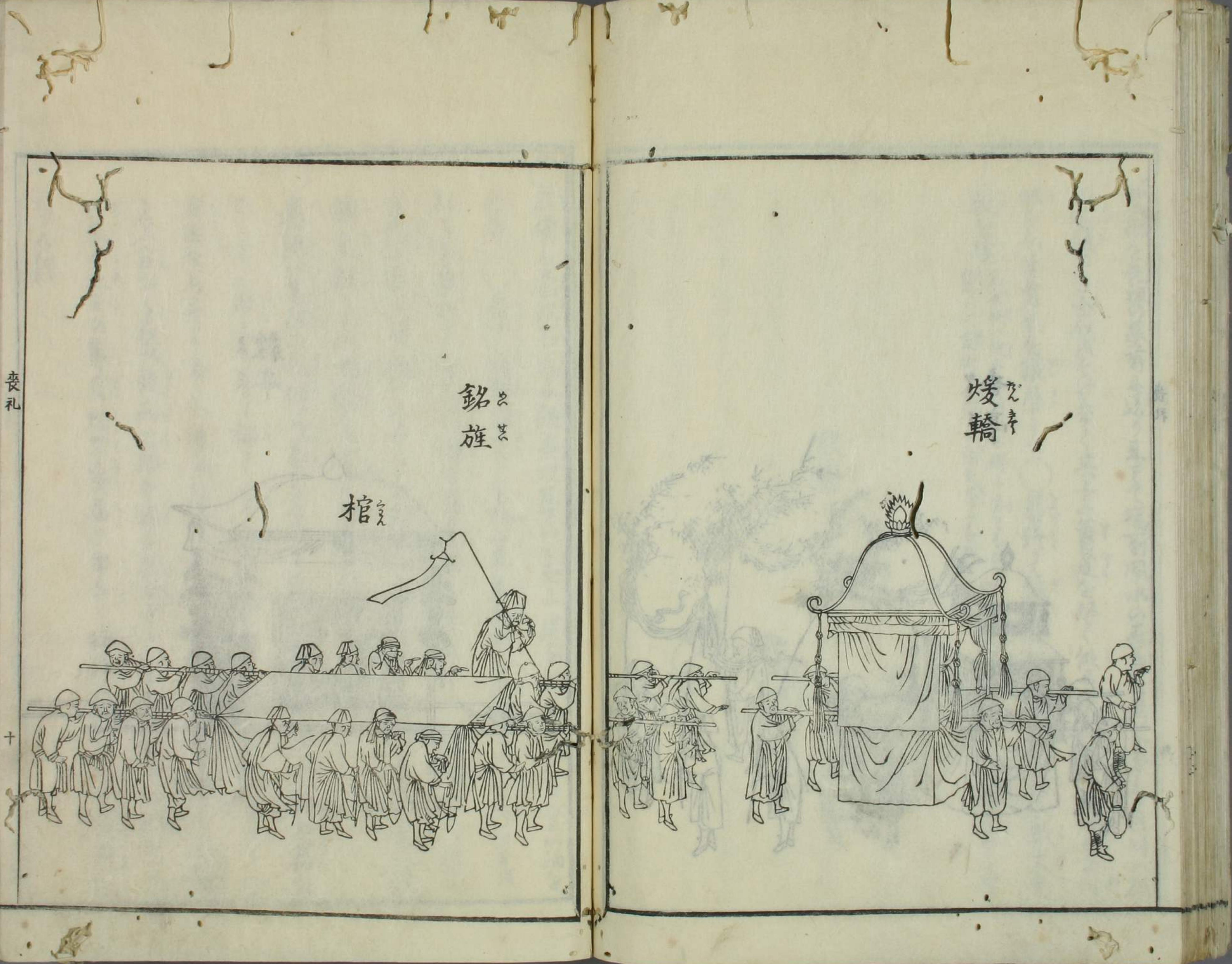
靈柩リョウシウを先祖センスの墓ツバメ所所送スル來アリて場マツ前マサニ同ドウ水ミズの吾ガ道トコロを考ハシメテ事モノ其ヒ時トキの柩リョウシウ
坐スル處カタ方カタ小コトハ石イシ代シテ木キ其ヒ上ノ木キ葛カモク筵シヤンを以シテ假シテ身ヒ喪マサニ屋ヤ造シテ地ジ面マツを吟シメテ
除スル木キ有リ生リを權ケン厝スル○葬マサニ禮リ緑グリーン香カイ成スル焚スル福ラッカを燒スル冥衣紙ミンイ大金ダクキン
紙シを燒スル冥衣紙ミンイ紙シみ衣紙イ紙シ帽ハット子シ襪ソックス子シ沓タバコ子シ被スル小コトハ金カネ紙シ大ダク金キン
紙シを燒スル冥衣紙ミンイ金カネ紙シ金銀衣カネギン類ルイを燒スル捨スルかんと
金カネ紙シ金銀衣カネギン類ルイを燒スル捨スルかんと

鼓樂コウロク

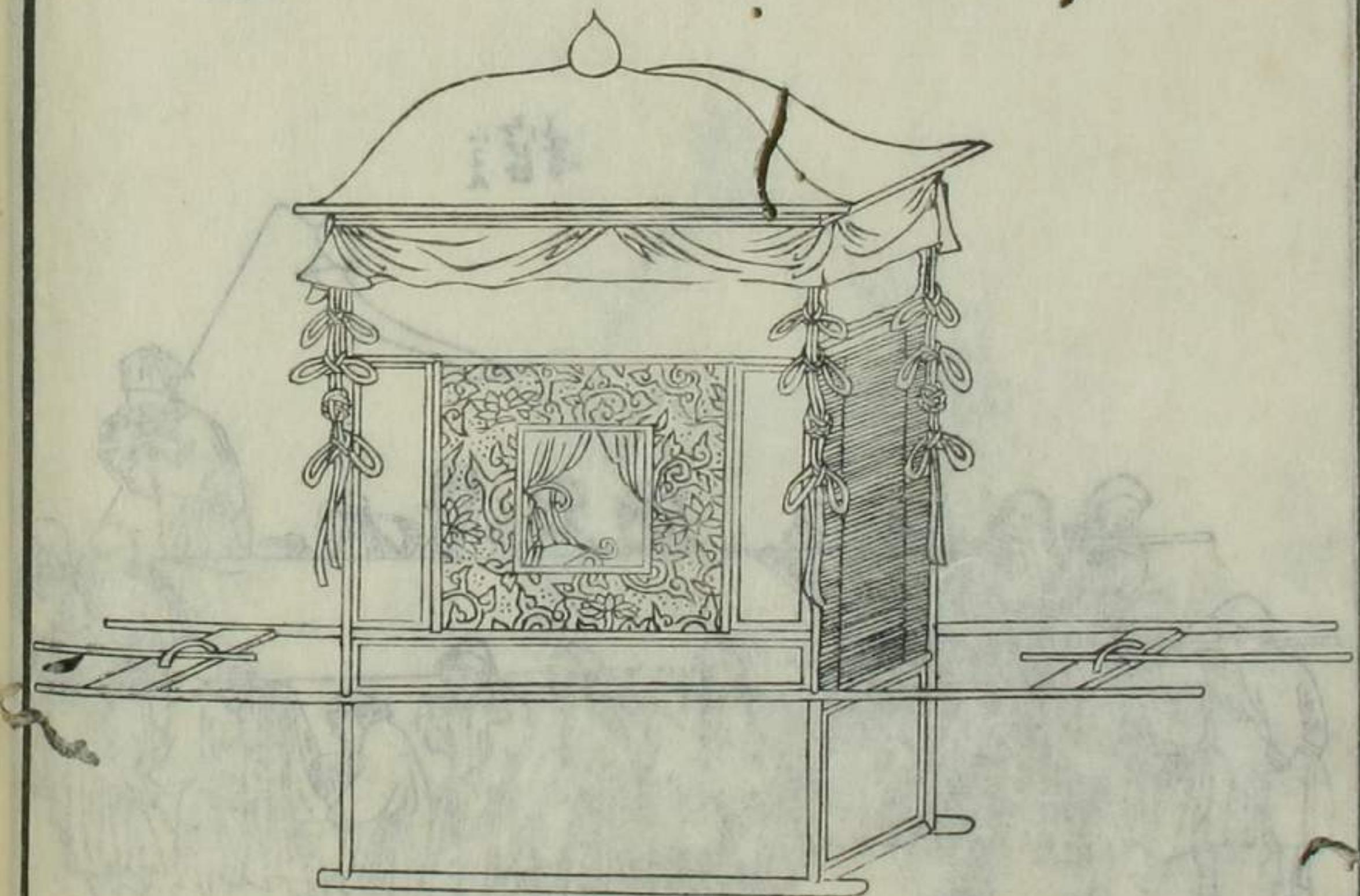


香亭カイティン



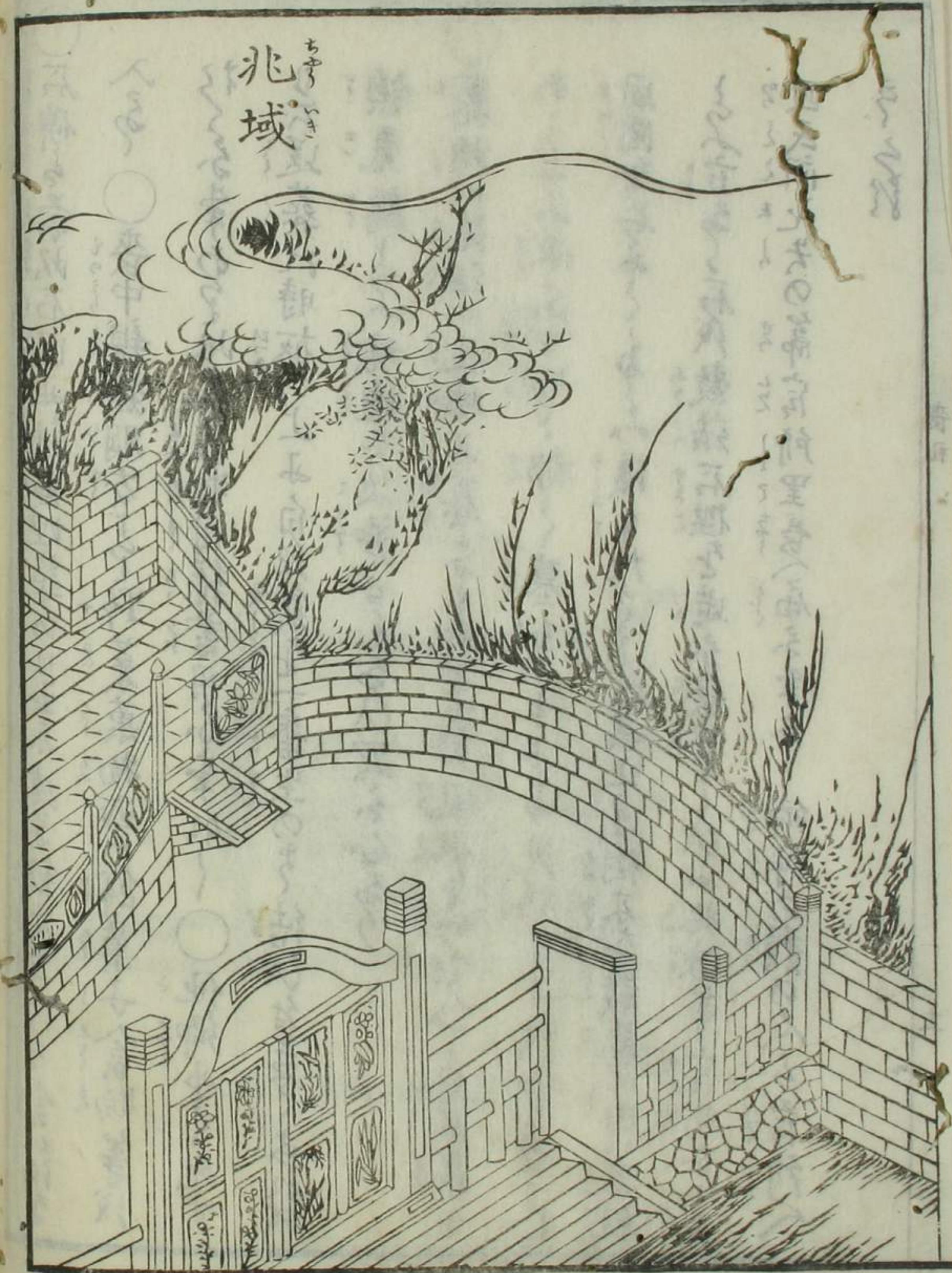
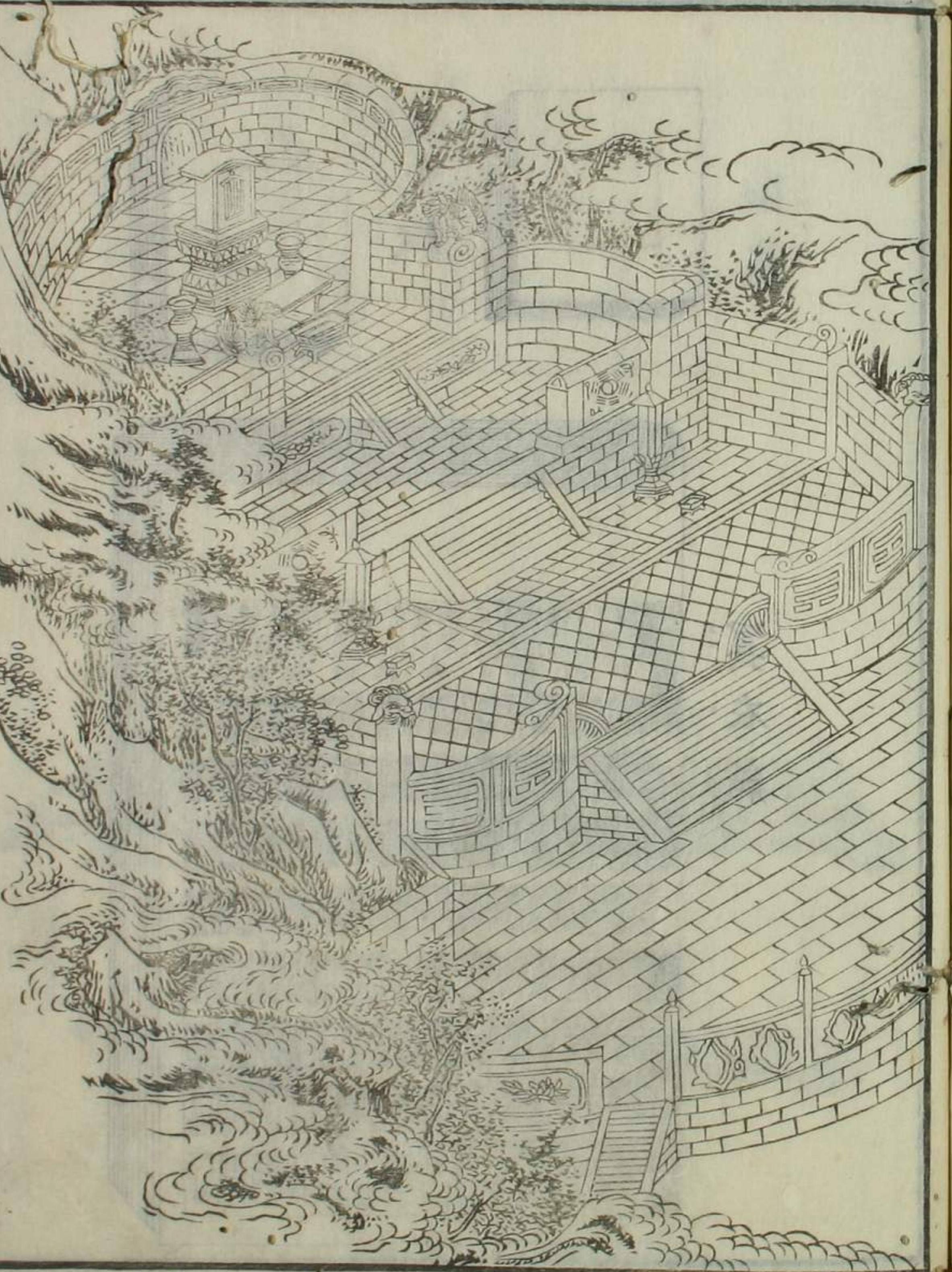


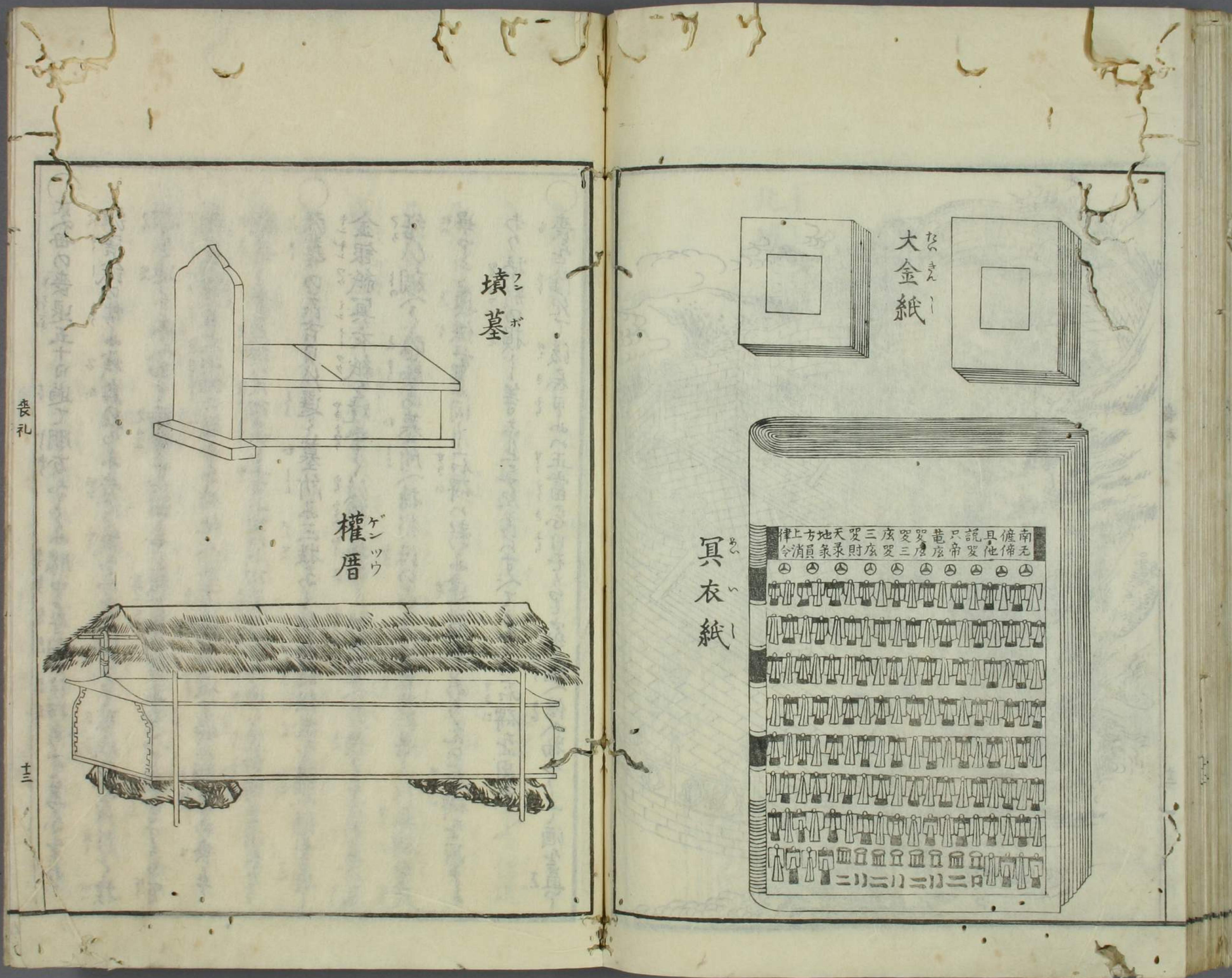
絡亭



○石碑も前以石匠み桃玉埋葬の日亟に建ふ銘文等に金額を
入る。○喪中親類朋友より野菜菓物或は餅菓子食料等送
わる事あると此の呉物目録書用ふ幸い。○他鄉ゆく死す
りば送葬の時柩の上に自死鶴を一番生のまま結び付至くされば
領魂鶴と云ふ魂魄を故郷へともあひゆる心あり。

○墓所の先祖の北域み葬せてもあり或は風水をかんぐて外の墓を
あらわす求ふものゝ都と墓も山をみゆ見晴りよに多くりも
周圍を石めぐらみ後手たうして其上に樹木を栽墓の内に方輿
とす方ある石成敷結石檻を造る喪式をひむ北域等官制あり
四民同化の爲官所里長へ届ふ事あり。卿紳の類の人ら官所へ

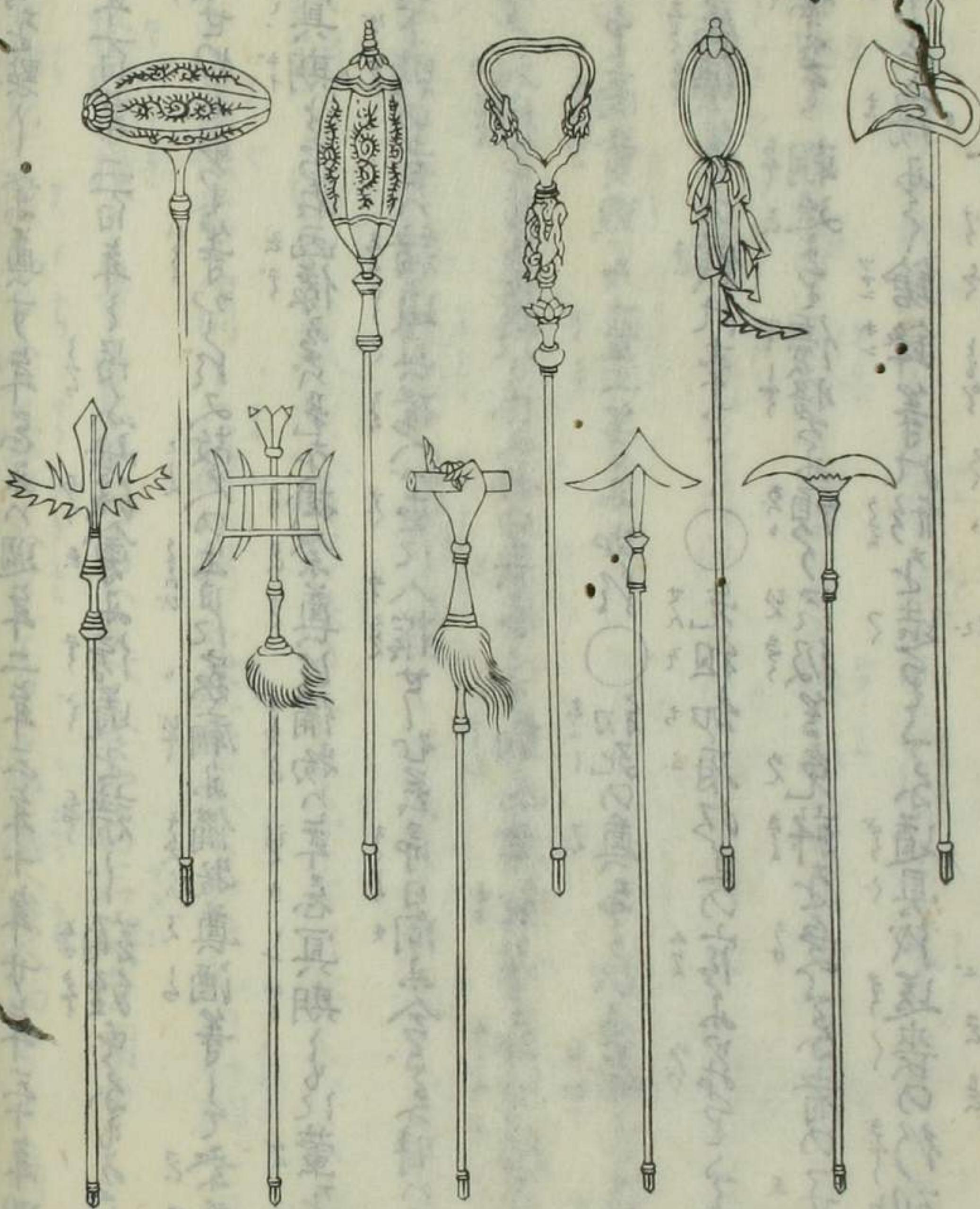




父母の喪退五十日過て朋友などか膳中尋問の挨拶らて事ふ事あり
○喪紙の帖み或名の如く青色と紙をかた門口と重次の者代替く挨拶
を述べ主人出て面會せば中も熟懃の方より入て面會するも有
○斬衰齊衰大小功の服わふ時他人み書翰を遣す時へ期年の喪事
期年書大功の大功某書小功ハ小功某書印肉も黒印肉を用ひたり
期年書大功ハ小功某書印肉も黒印肉を用ひたり
○改葬の吉日伐遷も墓所承三牲あびふ諸供物を備酒を奠
金銀紙冥衣紙を燒祭後棺を壙生ト能取敷之若損し等あひて取
送の調へ改葬の墓所へ持行法のよとく安葬に其上に石碑を建
畢まで直供前も同石碑ハ新み建替ふもあうえの石碑を用ひ
あり格別の損し等ナシとあひて直ぐすべてりての石碑を用ひ
○喪を除て後忌日正當忌日むらう家廟へ供へ物ナシて酒を奠
○極貧下賤の者の諸道具掃へ盡に入棺せむ忌日間も令まつて酒を奠
を終へ入棺せむも有たゞ父母の喪事も勤め奉能手忌日送葬にて
明三日も高賣或ち雇工等み出る○初死の直あびふ葬よりあつて
の祭属縉等の類れまつて○先祖加府ゆとの宮み界地とてうち又
賢徳多て朝廷も優特ぶ預り只級免許を受ける者の子孫ハ
執事乞錫ゆ鎗鋒等形を造つてふ道具伐送喪の行列子
持半あひ○凶服の輩國家の御言葉あびふ御祭禮等も擧

鑾駕

一名
執事



ふ幸を滑り親類朋友等より吉年祝宴の吉請せらるゝ時ハ五十
日代外あれど素履ゆく帽子の赤然を付て行。○吊客の初死とて殯
所お居る處に來る多く香燭を持持す也。○前の喪み又喪重る時
其行儀み隨ひ後の喪も勤む也。○聞忌の常と父母の喪たう凶信を聞
きるか日より定の日殺喪代勤む其余の親族の喪の日殺の内より残との
日數喪を勤免日殺満て後お守りあらば喪代勤む
○喪の内み子を生トたる時の宴を設焉。○官人（さぶらん）の小官ありやも
父母の喪みへ官代請を。○喪を除くふ式ある
○三年の間病を問奉考へかほ

清俗紀聞卷之十一

